

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成14年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/387
Right	

1. 保 存 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	榎石 武美	炭酸ガスレーザー装置 (Panalas10) による硬組織治療の臨床的研究
講 師	近藤 祥弘	歯内療法処置に応用される剤 (材) 品に関する研究
	野呂 明夫	新規口腔リハビリ器具による表情筋 (口輪筋・頬筋) 機能療法の基礎と臨床
	森山 貴史	口臭
助 手	渡部 光弘	歯髄 材 (剤) 品の接触界面に関する臨床的検討
	廣瀬 理子	歯周炎局所のサイトカインおよび iNOS 発現と特定細菌に関する研究

2. 成果の概要

1) 新規口腔リハビリ器具による表情筋 (口輪筋・頬筋) 機能療法の基礎と臨床

若年者から高齢者までの口唇閉鎖力の経年変化を調べるために、若年者 (3歳~19歳) 3,172名, 成人 (20歳~59歳) 761名, 高齢者 (60歳~89歳) 170名の合計4,103名について、口唇力測定器を用いて測定を実施した。

3歳~6歳までは男女ともに同様の口唇閉鎖力の上昇が認められたが、それ以降は男性が女性に比較して優位になり、男女ともに18~20歳頃に口唇閉鎖力はほぼでき上がり、男性は約14Nを女性は約12Nを示した。年齢別による口唇閉鎖力の推移から男性の口唇閉鎖力は、20歳代 (約14N) と30~40歳代 (約16N) とでピーク値は異なっていた。男女ともに60歳位より老化によって口唇閉鎖力は下降しはじめ、80歳代での口唇閉鎖力は、5~7Nであり3歳児とほぼ同じ値まで下降した。成人男性健康者の口唇閉鎖力は約14~17Nあるのに対して、成人男性有病者の口唇閉鎖力は約10~14Nであった。一方、成人女性健康者の口唇閉鎖力は約12~14Nあるのに対して、成人有病者の口唇閉鎖力は約8~10Nであった。3歳~59歳の男女において、口呼吸・扁桃炎・咽頭炎・アトピー・喘息・鼻炎・イビキ・生活習慣病などの疾病や症状を持つ有病者は、健康者に比較して口唇閉鎖力が男女ともに各年齢帯で約3~4N低い値を示した。健康者群と有病者群との間において、男女ともに各年齢帯で統計学的な有意差 ($p < 0.05$, Mann-Whitney test) を認めた。健康者・有病者の割合は、どの年代においても女性の有病者率は男性よりも高率に存在した。また、男女共にどの年代においても、口唇閉鎖力の弱い有病者が10~40%の割合で存在し、加齢に伴い有病者の比率が増加した。大病をすると同年代の人と比較して顕著に、口唇閉鎖力の低下傾向が認められた。口唇閉鎖力は呼吸器系と免疫系疾患の傾向をみるうえで有効な数値で、口腔環境の健康度を表す一つの指標となる可能性が高いと考えられる。

論 文

1. 野呂明夫, 高橋一祐, 小野田繁⁽¹⁾: 脳梗塞患者および高齢者への口腔リハビリ器具『パタカラ』を利用した口腔筋機能療法の実践, 日歯東洋医学会誌 22(12), 22~23, 2002. 原著 脳科学研 (1)東京都
2. 青木 聡⁽¹⁾, 槇石武美, 石川達也⁽²⁾: 私の咬合診断 順次誘導咬合の考え方に基づく診査の進め方, 東京歯医師会誌 50(6), 360~372, 2002. 原著 (1)水病・総合歯科, (2)保存
3. 辻野啓一郎⁽¹⁾, 島田 淳⁽²⁾, 大澤広晃⁽³⁾, 宮崎晴代⁽⁴⁾, 高野正行⁽⁵⁾, 森山貴史, 鈴木 聡⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁷⁾: 平成12年度水道橋病院臨床報告 過去5年間の水道橋病院の動きと平成12年度診療内容, 歯科学報 102(7), 597~619, 2002. 原著 (1)水病・小児歯科, (2)水病・スポーツ歯科, (3)水病・補綴科, (4)水病・矯正科, (5)水病・口外科, (6)水病・総合歯科, (7)歯麻
4. 高橋潤一⁽¹⁾, 野呂明夫, 秋廣良昭⁽²⁾, 高橋一祐: 若年者における口唇閉鎖力の閉鎖, Journal of International Society of Life Information Science 20(2), 424~425, 2002. 原著 (1)保存, (2)水病・総合歯科
5. 野呂明夫, 細川壮平⁽¹⁾, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭⁽¹⁾, 西本幸仁⁽¹⁾, 細川伊平⁽³⁾, 槇石武美, 平井義人⁽³⁾: 新規リハビリ器具による表情筋(口輪筋/頬筋)機能療法の基礎と臨床(第2報)若年者から高齢者における口唇閉鎖力の経年変化の評価, 日歯保存誌 45(5), 817~828, 2002. 原著 A00 0420 8 (1)水病・総合歯科, (2)保存, (3)保存

解 説

1. 高橋潤一⁽¹⁾, 野呂明夫, 秋廣良昭⁽²⁾, 平井義人⁽³⁾: パタカラを使用した口腔筋機能療法の可能性を探る, 日歯評論 62(12), 149~158, 2002. (1)保存, (2)水病・総合歯科, (3)保存
2. 森山貴史, 山田 了⁽¹⁾: インプラント周囲硬組織および軟組織に対するマイクロギャップの影響: イヌにおける組織形態学的研究, Quintessence Dent Imp 10(1), 108~115, 2003. (1)保存
3. 森山貴史, 山田 了⁽¹⁾: グロー放電処理のインテグリン関与メカニズムによる骨芽細胞様細胞のチタンへの接着, Quintessence Dent Imp 10(2), 232~234, 2003. (1)保存

単行図書

1. 森山貴史: 著分担: 暮らしの豆知識 03 (a)歯周病予防と正しい歯みがき法226~227頁, 国民生活センター, 東京, 2002.
2. 森山貴史: 単著: 中高年の歯の病気がすべてわかる本, 主婦と生活社, 東京, 2003.

学会抄録

1. 青木 聡⁽¹⁾, 奥川裕司⁽¹⁾, 市川信明⁽¹⁾, 加藤嘉哉⁽¹⁾, 槇石武美: 日常の臨床検査としての顎機能検査法について, 歯科学報 102(6), 69, 2002. (第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・総合歯科
2. 高階博文⁽¹⁾, 佐藤貞雄⁽¹⁾, 青木 聡⁽²⁾, 槇石武美: 様々な不快症状を訴える不正咬合患者の診断法と治療 第2報診断と治療, 日全身咬合会12回プログラム・抄集 67, 2002. (第12回日本全身咬合学会学術大会, 大阪市) (1)神歯大・歯・矯正, (2)水病・総合歯科

3. 細川壮平⁽¹⁾, 野呂明夫, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭⁽³⁾, 西本幸仁⁽⁴⁾, 加藤嘉哉⁽¹⁾, 槇石武美, 平井義人⁽⁵⁾: 新規リハビリ器具による表情筋(口輪筋/頬筋)機能療法の基礎と臨床(第9報) 幼児から老人における口唇閉鎖力の推移, 日歯保存誌 45(春季特別号), 123, 2002.(第116回日本歯科保存学会春季大会, 東京) A00 0420 8 (1)水病・総合歯科, (2)保存, (3)東京都, (4)神奈川県, (5)保存
4. 野呂明夫, 高橋潤一⁽¹⁾, 秋廣良昭⁽²⁾, 西本幸仁⁽³⁾, 保坂 誠⁽⁴⁾, 細川伊平⁽⁴⁾, 槇石武美, 平井義人⁽⁴⁾: 新規リハビリ器具による表情筋(口輪筋/頬筋)機能療法の基礎と臨床(第10報) 脳梗塞患者への『パタカラ』の応用と口唇閉鎖力の変化, 日歯保存誌 45(春季特別号), 124, 2002.(第116回日本歯科保存学会春季大会, 東京) A00 0420 8 (1)保存, (2)水病・総合歯科, (3)東京都, (4)保存
5. 青木 聡⁽¹⁾, 奥川裕司⁽¹⁾, 益田賢治⁽¹⁾, 槇石武美, 佐藤貞雄⁽²⁾: 不正咬合患者の咬合面誘導傾斜角(ガイドンス角)の測定, 第20回日本顎咬合学会学術大会・総会抄録集, 72, 2002.(第20回日本顎咬合学会学術大会・総会, 東京)(1)水病・総合歯科, (2)神歯大・矯正
6. 森山貴史, 渡部光弘, 奥川裕司⁽¹⁾, 廣瀬理子, 槇石武美: 東京歯科大学水道橋病院口臭外来について 2001年3月開設時から1年間の動向, 歯科学報 102(6), 540, 2002.(第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 脳科学研 (1)水病・総合歯科
7. 松本美穂⁽¹⁾, 加藤広之⁽¹⁾, 近藤祥弘, 中川寛一⁽¹⁾, 笠原正貴⁽²⁾, 五十嵐朋子⁽²⁾, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾: 根管治療消毒薬の応用により生じた下歯槽神経知覚鈍麻の症例, 歯科学報 102(6), 547, 2002.(第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市)(1)保存, (2)歯麻
8. 坂爪絵美⁽¹⁾, 末原正崇⁽¹⁾, 萩原領一⁽¹⁾, 渡部光弘, 森永一喜⁽¹⁾, 伊藤彰人⁽¹⁾, 浅井康宏⁽¹⁾, 中川寛一⁽¹⁾: 髄床底穿孔部の処置に対するMTAの効果 MTAを長期間応用した場合について, 歯科学報 102(6), 547, 2002.(第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市)(1)保存
9. 青木 聡⁽¹⁾, 大多和由美⁽²⁾, 槇石武美, 谷田部賢一⁽³⁾, 福田謙一⁽⁴⁾, 山根源之⁽⁵⁾, 井出吉信⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁷⁾, 石川達也⁽⁸⁾: 東京歯科大学水道橋病院における研修医に対するOSCE ポストアンケートより, 日歯医学会第21回抄集, 43, 2002.(第21回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 横浜市)(1)水病・総合歯科, (2)水病・小児歯科, (3)水病・矯正科, (4)水病・麻酔科, (5)市病・オーラルメディシン, (6)解剖, (7)歯麻, (8)保存
10. 福岡博史⁽¹⁾, 上田恵里子⁽¹⁾, 小山悠子⁽¹⁾, 福岡 明⁽¹⁾, 野呂明夫, 高橋一祐: 磁気波動共鳴分析器(MIRS)による歯科材料の評価と選定, Journal of International Society of Life Information Science 20(2), 417~421, 2002.(第14回生命情報科学シンポジウム, 千葉市) 脳科学研 (1)医療法人社団明徳会福岡歯科総合医療研究所
11. 高橋潤一⁽¹⁾, 野呂明夫, 秋廣良昭⁽²⁾, 高橋一祐: 若年者における口唇閉鎖力の成長, Journal of International Society of Life Information Science 20(2), 422~425, 2002.(第14回生命情報科学シンポジウム, 千葉市)(1)保存, (2)水病・総合歯科
12. 野呂明夫, 高橋潤一⁽¹⁾, 秋廣良昭⁽²⁾, 高橋一祐: 成人における口唇閉鎖力の経年変化, Journal of International Society of Life Information Science 20(2), 426~429, 2002.(第14回生命情報科学シンポジウム, 千葉市) A00 0420 8 脳科学研 (1)保存, (2)水病・総合歯科

13. 秋元善次⁽¹⁾, 高久勇一郎⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 浅田智宏⁽²⁾, 安達 康⁽²⁾, 廣瀬理子, 武田孝之⁽³⁾, 飯島俊一⁽³⁾, 椎貝達夫⁽³⁾: 上顎洞底挙上術に関する検討, 日口腔インプラント会誌, 144, 2002. (第32回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 広島市) (1)水病・口外科, (2)水病・補綴科, (3)水病・インプラント外来
14. 青木 聡⁽¹⁾, 槇石武美, 斎藤大輔⁽²⁾, 寺中敏夫⁽²⁾, 高階博文⁽³⁾, 佐藤貞雄⁽³⁾: 不正咬合を有する歯周病患者の診断と治療法について 第3報 治療効果の評価, 日歯保存誌 45(春季特別号), 71, 2002. (第116回日本歯科保存学春季大会, 東京) (1)水病・総合歯科, (2)神歯大・歯・保存, (3)神歯大・矯正

2 . 総 合 歯 科

プロフィール

1 . 教室員と主研究テーマ

教 授	槇石 武美	総合診療の進め方の検討
講 師	青木 聡	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
	牟田 具城	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
助 手	益田 賢治	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
病院助手	細川 壮平	歯牙漂白の経過観察 口腔筋機能訓練の研究
	小貫 瑞穂	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
	大迫 知子	総合歯科の臨床統計
	大澤 梨恵	総合歯科の臨床統計
	滝沢 博之	総合歯科の臨床統計
	竹井 久典	総合歯科の臨床統計

2 . 成果の概要

1) 総合診療の進め方の検討

総合診療を進めるにあたっては、患者中心の診療を行うこと、計画診療を行うこと、診療の流れのパターンを作ることが必要である。

そのためには診療内容の改革が必要と考えられ、受診者来院時からのステップをひとつひとつ検討している。

3 . 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

主催者	年月日	学会・研究会	会 場	主催地
槇石 武美	2002 . 6 .15	第 1 回総合歯科セミナー	東京歯科大学水道橋校舎 血脇記念ホール	東京
槇石 武美	2002 .10 .26	第 2 回総合歯科セミナー	東京歯科大学水道橋校舎 血脇記念ホール	東京
槇石 武美	2002 . 3 .23	第 3 回総合歯科セミナー	東京歯科大学水道橋校舎 血脇記念ホール	東京

4 . 教育講演等教育に関する業績，活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地	備 考
青木 聡	2002 . 2 .23	歯科における咬合診断の意味と考え方	日本歯科大学交友会・ 学術フォーラム	東京	

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地	備考
青木 聡	2002.6.8 ~ 9	第7回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	タスクフォース	千葉市	
青木 聡	2002.12.9 ~ 12	第5回歯科医師臨床研修指導医 ワークショップ(財)歯科医療 研修振興財団)	タスクフォース	裾野市	

論 文

1. 青木 聡, 槇石武美, 石川達也⁽¹⁾: 私の咬合診断 順次誘導咬合の考え方に基づく診査の進め方, 東京歯医師会誌 **50**(6), 360~372, 2002. 原著 (1)保存
2. 辻野啓一郎⁽¹⁾, 島田 淳⁽²⁾, 大沢広晃⁽³⁾, 宮崎晴代⁽⁴⁾, 高野正行⁽⁵⁾, 森山貴史⁽⁶⁾, 鈴木聡, 金子 譲⁽⁷⁾: 平成12年度水道橋病院臨床報告 過去5年間の水道橋病院の動きと平成12年度診療内容, 歯科学報 **102**(7), 597~619, 2002. 原著 (1)水病・小児歯科, (2)水病・スポーツ歯科, (3)東京都, (4)水病・矯正科, (5)水病・口外科, (6)水病・保存科, (7)歯麻
3. 青木 聡, 佐藤貞雄⁽¹⁾: 補綴的咬合再構成における咬合の垂直的コントロール, 歯科医療 **17**(1), 76~85, 2003. 原著 (1)神歯大・成長発達歯科学
4. 野呂明夫⁽¹⁾, 細川壮平, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭, 西本幸仁, 細川伊平⁽³⁾, 槇石武美⁽³⁾, 平井義人⁽³⁾: 新規口腔リハビリ器具による表情筋(口輪筋・頬筋)機能療法の基礎と臨床(第2報)若年者から高齢者における口唇閉鎖力の経年変化の評価, 日歯保存誌 **45**(5), 817~828, 2003. 原著 (1)水病・保存科, (2)保存, (3)保存

そ の 他

1. 青木 聡: 咬合についての国際卒後研修コース 咀嚼器官の機能および機能障害 に参加して, Quintessence Dent Technol **27**(10), 1348~1350, 2002.

学会抄録

1. 青木 聡, 奥川裕司, 益田賢治, 槇石武美, 佐藤貞雄⁽¹⁾: 不正咬合患者の咬合面誘導傾斜角(ガイドンス角)の測定, 第20回日本顎咬合学会学術大会・総会抄録集, 72, 2002. (第20回日本顎咬合学会学術大会・総会, 東京) (1)神歯大・矯正
2. 青木 聡: 歯科における咬合診断の意味と考え方, 日本歯科大学交友会・歯学会会報 **28**(3), 42, 2002. (学術フォーラム2003, 東京) 招待講演
3. 細川壮平, 高橋潤一⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 秋廣良昭, 西本幸仁, 加藤嘉哉, 槇石武美⁽²⁾, 平井義人⁽³⁾: 新規口腔リハビリ器具による表情筋(口輪筋・頬筋)機能療法の基礎と臨床(第9報)幼児から老人における口唇閉鎖力の推移, 日歯保存誌 **45**(6), 123, 2002. (第116回日本歯科保存学春季大会, 東京) (1)保存, (2)水病・保存科, (3)保存
4. 青木 聡, 槇石武美, 斎藤大輔⁽¹⁾, 寺中敏夫⁽¹⁾, 高階博文⁽²⁾, 佐藤貞雄⁽²⁾: 不正咬合を有する歯周病患者の診断と治療法について 第3報 治療効果の評価, 日歯保存誌 **45**(春季特別号), 71, 2002. (第116回日本歯科保存学春季大会, 東京) (1)神歯大・保存, (2)神歯大・矯正
5. 青木 聡, 大多和由美⁽¹⁾, 金子 譲⁽²⁾: 東京歯科大学水道橋病院における歯科臨床研修医に対する客観的臨床能力試験(OSCE)の実施 第1報 課題と評価について, 歯科学報 **102**(6), 93, 2002. (第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・小児歯科, (2)歯麻
6. 森山貴史⁽¹⁾, 渡部光弘⁽¹⁾, 奥川裕司, 廣瀬理子⁽¹⁾, 槇石武美⁽¹⁾: 東京歯科大学水道橋病院口臭外来について 2001年3月開設時から1年間の動向, 歯科学報 **102**(6), 540, 2002. (第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 脳科学研 (1)水病・保存科

7. 大多和由美⁽¹⁾, 青木 聡, 木津康博⁽²⁾, 柿澤 卓⁽³⁾, 安達 康⁽⁴⁾, 石上恵一⁽⁵⁾, 石井拓男⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁷⁾, 石川達也⁽⁸⁾: 東京歯科大学水道橋病院における研修医に対する OSCE 課題と評価について, 日歯医教会21回抄集, 42, 2002. (第21回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 横浜市) (1)水病・小児歯科, (2)市病・オーラルメディシン, (3)水病・口外科, (4)水病・補綴科, (5)スポーツ歯, (6)社会歯, (7)歯麻, (8)保存
8. 青木 聡, 大多和由美⁽¹⁾, 槇石武美⁽²⁾, 谷田部賢一⁽³⁾, 福田謙一⁽⁴⁾, 山根源之⁽⁵⁾, 金子 譲⁽⁶⁾, 石川達也⁽⁷⁾: 東京歯科大学水道橋病院における研修医に対する OSCE ポストアンケートより, 日歯医教会21回抄集, 43, 2002. (第21回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 横浜市) (1)水病・小児歯科, (2)水病・保存科, (3)水病・矯正科, (4)水病・麻酔科, (5)市病・オーラルメディシン, (6)歯麻, (7)保存
9. 野呂明夫⁽¹⁾, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭, 西本幸仁, 保坂 誠⁽³⁾, 細川伊平⁽³⁾, 槇石武美⁽¹⁾, 平井義人⁽³⁾: 新規口腔リハビリ器具による表情筋(口輪筋・頬筋)機能療法の基礎と臨床(第10報)脳梗塞患者への「パタカラ」の応用と口唇閉鎖能力の変化, 日歯保存誌 45(春季特別号), 124, 2002. (第116回日本歯科保存学春季大会, 東京) (1)水病・保存科, (2)保存, (3)保存
10. 青木 聡, 奥川裕司, 市川信明, 加藤嘉哉, 槇石武美: 日常の臨床検査としての顎機能検査法について, 歯科学報 102(6), 69, 2002. (第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市)
11. 高階博文⁽¹⁾, 佐藤貞雄⁽¹⁾, 青木 聡, 槇石武美: 様々な不快症状を訴える不正咬合患者の診断法と治療 第2報 診断と治療, 日全身咬合会12回プログラム・抄集 67 2002. (第12回日本全身咬合学会学術大会, 大阪市) (1)神歯大・歯・矯正

3. 補 綴 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	安達 康	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A 83 0530 1)
講 師	堀田 宏巳	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A 83 0530 1)
助 手	三宅菜穂子	補綴材料への口腔内細菌の吸着に関する実験的研究 (A 91 0520 2) 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響 (HRC 5 A03)
	野村 貴生	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A 83 0530 1)
	浅田 智宏	有床義歯の重合方法 (A 96 0510 2)
	金井 由起	歯冠色修復材料の表面処理方法と接着性に関する研究 (A 99 0520 1)

2. 成果の概要

1) 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響 (HRC 5 A03)

本研究はヒドロキシアパタイト表面に対する唾液タンパクと口腔内細菌の吸着，ヒドロキシアパタイト表面へのレーザー照射による唾液タンパクと口腔内細菌の吸着阻止効果を明らかにすることを目的とし，本年度はヒドロキシアパタイト表面への唾液タンパクの吸着実験と除去実験に先立ち，ヒドロキシアパタイトに対するレーザー照射の影響を界面化学的に明らかにするために照射前後のゼータ電位を測定することにした。

レーザーには GaAlAs 半導体ダイオードレーザー LD15 (波長 : 810nm , Dentek Laser Systems Production 社製) を使用し，ヒドロキシアパタイトへの照射は $0.0238\text{J}/\text{m}^2$ のエネルギー密度で行ったところレーザー照射群とコントロール群のゼータ電位に差は認められなかった。

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究 課 題	研 究 費
三宅菜穂子	pH タイトレーションを用いた補綴材料への口腔内細菌の吸着性および洗浄効果	科学研究費・若手 (B)

論 文

1. 宮下有恒⁽¹⁾, 荒瀧友彦⁽¹⁾, 野村貴生, 鈴木浩樹⁽¹⁾, 熱田俊一⁽¹⁾, 堀田宏巳, 嶋村一郎⁽¹⁾, 安達 康, 岸 正孝⁽¹⁾: 東京歯科大学病院における Osseointegrated Implant の臨床評価(第3報) インプラント症例の長期観察に基づく fixture の機能残存率, 歯科学報 102(10), 779~786, 2002. 原著 A 83 0530 1 (1)補綴
2. 荒瀧友彦⁽¹⁾, 熱田俊一⁽¹⁾, 宮下有恒⁽¹⁾, 森下亜矢子⁽¹⁾, 野村貴生, 関根秀志⁽¹⁾, 山倉大紀⁽¹⁾, 嶋村一郎⁽¹⁾, 岸 正孝⁽¹⁾: インプラント義歯における fixture の埋入条件が周囲骨組織の応力分布に及ぼす影響 遊離端ブリッジに関する二次元有限要素法解析, 歯科学報 102(9), 719~731, 2002. 原著 A 83 0530 1 (1)補綴
3. 辻野啓一郎⁽¹⁾, 島田 淳⁽²⁾, 大澤広晃, 宮崎晴代⁽³⁾, 高野正行⁽⁴⁾, 森山貴史⁽⁵⁾, 鈴木 聡⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁷⁾: 平成12年度水道橋病院臨床報告 過去5年間の水道橋病院の動きと平成12年度診療内容, 歯科学報 102(7), 597~619, 2003. 原著 (1)水病・小児歯科, (2)水病・スポーツ歯科, (3)水病・矯正科, (4)水病・口外科, (5)水病・保存科, (6)水病・総合歯科, (7)歯麻

学会抄録

1. Ishikawa, T.⁽¹⁾, Shimon, M.⁽²⁾, Oda, Y.⁽³⁾, Satou, T.⁽⁴⁾, Muramatsu, T.⁽²⁾, Matsuzaka, K.⁽⁵⁾, Miyake, N., Hattori, M.⁽³⁾, Takahashi, K.⁽¹⁾: Influences of laser on activity of salivary acinar cells, Bull Tokyo Dent Coll 43(2), 138~139, 2002. (Workshop 2002 Oral Health Science Center Tokyo Dental College, Chiba) HRC3A07 (1)保存, (2)病理, (3)理工, (4)補綴, (5)臨検査
2. 三宅菜穂子, 佐藤 亨⁽¹⁾, 眞木吉信⁽²⁾: 歯冠用硬質レジンのゼータ電位の測定, 日補綴歯会誌 46(107特別号), 164, 2002. (第107回日本補綴歯科学会学術大会, 東京) A91 0520 2 (1)補綴, (2)衛生
3. 富田友美子⁽¹⁾, 三宅菜穂子, 石川博美⁽²⁾: ラット唾液腺における脂質と脂肪酸組成, 第41回日本油化学会年会講演要旨集, 200, 2002. (第41回日本油化学会年会, 武蔵野市) A89 0120 1 生素研実動施設(1)生化学 (2)文教大・教育
4. 赤堀仁則⁽¹⁾, 吉田浩一⁽¹⁾, 森下亜矢子⁽¹⁾, 宮下有恒⁽¹⁾, 鈴木浩樹⁽¹⁾, 辻 吉純⁽¹⁾, 嶋村一郎⁽¹⁾, 安達 康, 岸 正孝⁽¹⁾: 新考案のインプラント印象法における作業用模型の寸法精度に関する研究(第一報), 歯科学報 102(10), 799, 2002. (第274回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A 83 0530 1 (1)補綴
5. 本間慎也⁽¹⁾, 荒瀧友彦⁽¹⁾, 辻吉純⁽¹⁾, 山倉大紀⁽¹⁾, 堀田宏巳, 嶋村一郎⁽¹⁾, 岸 正孝⁽¹⁾, 佐々木眞澄⁽¹⁾: 歯根破折に対するポストの設計に関する力学的考察 その1 二次元有限要素解析, 歯科学報 102(10), 842, 2002. (第274回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A 85 0530 2 (1)補綴
6. 池田浩子⁽¹⁾, 堀江伸行⁽¹⁾, 山田素子⁽¹⁾, 山崎喜之⁽¹⁾, 佐藤雅志⁽¹⁾, 今村嘉宣⁽²⁾, 堀田宏巳, 安達 康: 老年者の顎関節症の検討(第3報)リウマチ性顎関節炎の長期観察例, 老年歯医 17(2), 219, 2002. (第13回日本老年歯科医学会総会, 広島市) (1)東京都多摩老人医療センター歯科口腔外科, (2)神奈川県
7. 石川達也⁽¹⁾, 下野正基⁽²⁾, 小田 豊⁽³⁾, 佐藤 亨⁽⁴⁾, 村松 敬⁽²⁾, 松坂賢一⁽⁵⁾, 三宅菜穂子, 服部雅之⁽³⁾, 高橋 賢⁽¹⁾, 太田一正⁽⁶⁾: 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響, 歯科学報 103(1), 50, 2003. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)保存, (2)病理, (3)理工, (4)補綴, (5)臨検査, (6)生化学

- 8 . 武藤功英⁽¹⁾, 辻 吉純⁽¹⁾, 安達 康, 岸 正孝⁽¹⁾: 義歯用軟質裏装材の特性に関する研究 第一報応力緩和に関する二次元有限要素法解析 , 日補綴歯会誌 47(2), 434, 2003 . (平成14年度日本補綴歯科学会東関東支部総会第6回学術大会, 千葉市) (1)補綴
- 9 . Akahori, Y.⁽¹⁾, Hotta, H., Adachi, Y., Kishi, M.⁽¹⁾, Ide, Y.⁽²⁾ : The Three - dimensional analysis of bone structure around titanium implants using microcomputed tomography, 4th Annual Meeting of WCOI Japan Division 2002 Program and Abstracts, 14 ~ 15 , 2003 . (4th Annual meeting of WCOI Japan Division 2002, Tokyo) A 83 0530 1 実動施設 (1)補綴 , (2)解剖

4 . 小 児 歯 科

プロフィール

1 . 教室員と主研究テーマ

講 師	大多和由美	外傷幼若永久歯における電氣的閾値の経時的変化 (A 87 0450 4)
	望月 清志	永久歯萌出遅延歯の処置法
助 手	辻野啓一郎	乳歯形態異常, 歯数異常が永久歯列に及ぼす影響
病院助手	北村 智子	小児歯科来院患者動態
	坪倉亜希子	乳歯, 幼若永久歯外傷の実態
研 修 医	金子かおり	障害児 (者) 歯科治療の実態

2 . 成果の概要

歯科大学病院小児歯科来院患者の実態調査 平成12, 13年度における診療内容について

小児歯科では小児に対する長期的歯科保健管理の過程において, 疾病に対する処置内容は多岐にわたっている. 近年, 小児の齲蝕罹患の減少あるいは少子化の進展などから, 小児歯科医療の在り方が論議されている. このような背景の中で, 現在の小児歯科における診療内容を把握することは大切なことと考える. そこで, 最近の日常の小児歯科診療の動向を把握する目的で, 平成12年4月から平成14年3月までの2年間に東京歯科大学水道橋病院小児歯科を受診した小児の診療内容に関する実態調査を行ったところ以下の結論を得た.

- 1) 月別延べ患者数・新患者はともに8月が多く, 次いで3月, 7月, 12月が多かった.
 - 2) 処置内容では保存処置が全体の約4割を占めていた.
 - 3) 処置内容を年齢別で比較すると, 保存処置の割合は低年齢児で多く, 予防処置の割合は6~15歳までほぼ平均的に行われていた. 咬合誘導処置の割合は10歳, 13歳にピークがあった.
 - 4) 定期健診時の処置内容は, 予防処置が約6割, 保存処置が約2割行われていた.
- 小児歯誌 40, 851~857, 2002.

3 . 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育ワークショップ等

氏 名	年月日	ワークショップ名	役 割	開催地
辻野啓一郎	2002 .11 . 2 ~ 3	第8回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	参加者	千葉市

論 文

1. 望月清志, 辻野啓一郎, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 土屋喜子⁽²⁾, 末石研二⁽²⁾, 山口秀晴⁽³⁾: 線状骨症 頭蓋骨硬化症 大脳症の歯科学的所見, 小児歯誌 40(3), 571~575, 2002. 症例 (1)小児歯, (2)水病・矯正科, (3)矯正
2. 北村智子, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 歯科大学病院小児歯科来院患者の実態調査 平成12, 13年度における診療内容について, 小児歯誌 40(5), 851~857, 2002. 臨床 (1)小児歯
3. 氏家真由子⁽¹⁾, 黒須美佳⁽¹⁾, 辻野啓一郎, 牛田永子⁽¹⁾, 門屋真理⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 歯科大学病院小児歯科における過剰歯に関する実態調査, 小児歯誌 41(1), 87~93, 2003. 症例 (1)小児歯
4. 大多和由美, 辻野啓一郎, 望月清志, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 歯ブラシ刺入による頬脂肪体ヘルニアの1例, 小児歯誌 41(1), 297~302, 2003. 症例 (1)小児歯
5. 辻野啓一郎, 島田 淳⁽¹⁾, 大澤広晃⁽²⁾, 宮崎晴代⁽³⁾, 福田謙一⁽⁴⁾, 高野正行⁽⁵⁾, 森山貴史⁽⁶⁾, 鈴木 聡⁽⁷⁾, 金子 譲⁽⁸⁾: 平成12年度水道橋病院臨床報告 過去5年間の水道橋病院の動きと平成12年度診療内容, 歯科学報 102(7), 597~619, 2003. 臨床 (1)水病・スポーツ歯科, (2)水病・補綴科, (3)水病・矯正科, (4)水病・麻酔科, (5)水病・口外科, (6)水病・保存科, (7)水病・総合歯科, (8)歯麻

プロシーディングス

1. Mochizuki, K., Sekine, H.⁽¹⁾, Shibukawa, Y.⁽²⁾, Shintani, M.⁽³⁾, Yakushiji, M.⁽⁴⁾, Suzuki, T.⁽²⁾: Magnetoencephalographic representation of the periodontal sensation from bilateral maxillary permanent canine teeth in human primary somatosensory cortex, Proceeding of the 13th International Conference on Biomagnetism, 430~432, 2002. (13th International Conference on Biomagnetism, Jena, Germany) HRC3B01 脳科学研 (1)補綴, (2)生理, (3)脳科学研究施設, (4)小児歯

学会抄録

1. 関根秀志⁽¹⁾, 望月清志, 澁川義幸⁽²⁾, 新谷益朗⁽³⁾, 鈴木 隆⁽²⁾: 口腔内触圧刺激の脳磁場計測と今後の展望, 平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集, 2001. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC3B08 脳科学研 (1)補綴, (2)生理, (3)脳科学研究施設
2. 望月三香⁽¹⁾, 小林瑞穂⁽²⁾, 望月清志, 町田幸雄⁽³⁾, 薬師寺 仁⁽³⁾: リーウエイスペースと永久歯列状態との関連性について, 小児歯誌 40(2), 338, 2002. (第40回日本小児歯科学会および総会, 千葉市) (1)神奈川県, (2)埼玉県, (3)小児歯
3. 小林瑞穂⁽¹⁾, 望月三香⁽²⁾, 望月清志, 町田幸雄⁽³⁾, 薬師寺 仁⁽³⁾: リーウエイスペースと側方歯群交換との関連性について, 小児歯誌 40(2), 339, 2002. (第40回日本小児歯科学会大会および総会, 千葉市) (1)埼玉県 (2)神奈川県, (3)小児歯
4. 黒須美佳⁽¹⁾, 氏家真由子⁽¹⁾, 辻野啓一郎, 牛田永子⁽¹⁾, 門屋真理⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 東京歯科大学小児歯科における粘液嚢胞に関する実態調査, 小児歯誌 40(2), 370, 2002. (第40回日本小児歯科学会大会および総会, 千葉市) (1)小児歯

5. 氏家真由子⁽¹⁾, 黒須美佳⁽¹⁾, 辻野啓一郎, 牛田永子⁽¹⁾, 門屋真理⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 東京歯科大学小児歯科における過剰歯に関する実態調査, 小児歯誌 **40**(2), 371, 2002. (第40回日本小児歯科学会大会および総会, 千葉市) (1)小児歯
6. 青木 聡⁽¹⁾, 大多和由美, 金子 謙⁽²⁾: 東京歯科大学水道橋病院における歯科臨床研修医に対する客観的臨床能力試験(OSCE)の実施 第1報 課題と評価について, 歯科学報 **102**(6), 93, 2002. (第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・総合歯科, (2)歯麻
7. 北村智子, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 平成13年度における東京歯科大学水道橋病院小児歯科来院患者の実態調査, 歯科学報 **102**(6), 554, 2002. (第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)小児歯
8. 南 誠二⁽¹⁾, 西村滋美⁽¹⁾, 田中賦彦⁽¹⁾, 石塚 亨⁽¹⁾, 古田裕司⁽¹⁾, 小池 修⁽¹⁾, 篠塚 修⁽²⁾, 深山治久⁽³⁾, 小長谷光⁽³⁾, 一戸達也⁽⁴⁾, 縣 秀栄⁽⁴⁾, 大多和由美, 望月清志, 辻野啓一郎, 持永春奈⁽⁵⁾, 永塚規依⁽⁵⁾, 佐藤貞彦⁽¹⁾: 地区の障害者(児)における実態調査 食事に関する事項について, 障害者歯 **23**(3), 256, 2002. (第19回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 札幌市) (1)東京都, (2)東医歯大・大学院・障害者歯科, (3)東医歯大・大学院・麻酔生体管理, (4)歯麻, (5)東京家政大・家政・調理
9. 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 末石研二⁽²⁾, 山口秀晴⁽³⁾, 田中葉子⁽⁴⁾: 広範な歯牙のエナメル形成不全を伴う歯科的所見より見出された Oculodentodigital syndrome の1例, 障害者歯 **23**(3), 417, 2002. (第19回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 札幌市) (1)小児歯, (2)水病・矯正科, (3)矯正, (4)市病・小児科
10. 望月清志, 北村智子, 辻野啓一郎, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 平成12・13年度の歯科大学病院小児歯科臨床における乳歯歯内療法の実態調査, 歯科学報 **102**(10), 820, 2002. (第274回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)小児歯
11. Ujiie, M.⁽¹⁾, Kurosu, M.⁽¹⁾, Tsujino, K., Ushida, N.⁽¹⁾, Kadoya, M.⁽¹⁾, Yakushiji, M.⁽¹⁾: Survey of the present status of supernumerary teeth at the department of pediatric dentistry of a dental college hospital, China - Japan Medical Conference 2002 Program & Abstract Book, 28, 2002. (China - Japan Medical Conference 2002, Beijing, China) (1)小児歯
12. Kurosu, M.⁽¹⁾, Ujiie, M.⁽¹⁾, Tsujino, K., Ushida, N.⁽¹⁾, Kadoya, M.⁽¹⁾, Yakushiji, M.⁽¹⁾: Survey of the present status of mucous cysts at the department of pediatric dentistry of a dental college hospital, China - Japan Medical Conference 2002 Program & Abstract Book, 31, 2002. (China - Japan Medical Conference 2002, Beijing, China) (1)小児歯
13. 望月清志, 久保周平⁽¹⁾, 黒須美佳⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 田崎雅和⁽²⁾, 阿部伸一⁽³⁾, 山倉大紀⁽⁴⁾, 末石研二⁽⁵⁾, 坂本輝雄⁽⁶⁾, 中野洋子⁽⁷⁾: 成長発達期における口腔内圧受容と大脳皮質感覚野の関連について, 平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集, 26~27, 2002. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC3B01 脳科学研 (1)小児歯, (2)生理, (3)解剖, (4)補綴, (5)水病・矯正科, (6)矯正, (7)口外

14. 青木 聡⁽¹⁾, 大多和由美, 槇石武美⁽²⁾, 谷田部賢一⁽³⁾, 福田謙一⁽⁴⁾, 山根源之⁽⁵⁾, 金子 譲⁽⁶⁾, 石川達也⁽⁷⁾: 東京歯科大学水道橋病院における研修医に対する OSCE ポストアンケートより, 日歯医教会21回抄集, 43, 2002. (第21回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 横浜市) (1)水病・総合歯科, (2)水病・保存科, (3)水病・矯正科, (4)水病・麻酔科, (5)市病・オーラルメディシン, (6)歯麻, (7)保存
15. 大多和由美, 辻野啓一郎, 望月清志, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 歯ブラシ刺入による頬脂肪体ヘルニアの1例, 小児口腔外 13(1), 40~41, 2003. (第14回日本小児口腔外科学会総会, 高松市) (1)小児歯
16. 内川智江, 北村智子, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾: 人工甘味料添加フッ化物ゲルの臨床における利用方法, 小児歯誌 41(3), 620~621, 2003. (第16回日本小児歯科学会関東地方会大会および総会, 東京) (1)小児歯
17. 大多和由美, 青木 聡⁽¹⁾, 木津康博⁽²⁾, 柿澤 卓⁽³⁾, 安達 康⁽⁴⁾, 石上恵一⁽⁵⁾, 石井拓男⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁷⁾, 石川達也⁽⁸⁾: 東京歯科大学水道橋病院における研修医に対する OSCE 課題と評価について, 日歯医教会21回抄集, 42, 2003. (第21回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 横浜市) (1)水病・総合歯科, (2)市病・オーラルメディシン, (3)水病・口外科, (4)水病・補綴科, (5)スポーツ歯, (6)社会歯, (7)歯麻, (8)保存

5 . 矯 正 歯 科

プロフィール

1 . 教室員と主研究テーマ

教 授	谷田部賢一	矯正術後の長期安定性について
講 師	古賀 正忠	PPAS における bracket position の検討
助 手	宮崎 晴代	8020 達成に向けて咬合状態が残存歯数におよぼす影響について 矯正治療後の歯列の安定性について (A90 0590 1)
	長谷部利一	変形性顎関節症と顎顔面形態及び不正咬合の関連について
	林 正樹	
病院助手	上田起望子	
	小貴 暁美	
	勝村さくら	
	清本 一成	
	阿部 輝美	
	海老原 環	

2 . 成果の概要

1) PPAS における Bracket Position の検討

Programmed and Preadjusted Appliance System (PPAS) の効果を最大限に発揮させるための的確な bracket position の情報を得るため、一定規格で正常咬合に配列した不正咬合の診断用 set up model を用いて bracket position の標準値、Bracket Placement Height 標準値を算出した。さらに bracket position に関する種々の考察を行い、この値が bracket position を決定する上で極めて有用である事が示唆された。

Angle News letter 12(1), 2002 .

2) カウンターフォースアーチを用いた矯正治療前後における顎頭の位置変化と治療効果について

straight wire appliance 法に reverse curve of Spee が付与されたワイヤーを用いた際におこる治療効果について咬合器 Panadent 社製 condylar positioning indicator (C. P. I.), 及び側貌頭部エックス線規格写真を使用して検討した。矯正治療による顎頭の位置変化を C. P. I. を用いて調査した結果、顎頭の偏位量の減少を Lancer 社製 counter force (CF) を用いて矯正治療を行った CF 群、ステンレススチールワイヤー (SS) を用いて矯正治療を行った SS 群共に認めなかった。しかし、SS 群では顎頭偏位量の収束を認めた。矯正治療による骨格的变化を、側貌セファロを用いて調査した結果、CF 群における臼歯部の挺出量が大きくこのため下顎体部の下後方への回転を認めた。

歯科学報 101(11), 1025 ~ 1032, 2001 .

3) 8020 達成に向けて咬合状態残存歯数におよぼす影響について

研究目的はカリエスや歯周病の罹患率を減少させ、歯牙喪失を防ぎ歯科医療に貢献する矯正治療のあり方を探ることである。筆者は平成10年度から5年間にわたり千葉市および千葉市歯科医師会と協力して千葉市長生き良い歯のコンクールに応募した8020達成者の診査を行い、8020達成者は歯並びが比較的整っているとの結論を得た。さらに水道橋来院不正咬合者の不正咬合状態と歯科疾患状況について調査した結果、顎変形症は喪失歯や修復歯が多かった。

臨床家のための矯正 Year Book 124 ~ 128, 2002, クインテッセンス出版 .

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
宮崎 晴代	8020達成者の咬合および顎顔面形態に関する調査 咬合状態は8020達成に關与するか	平成14年度8020推進財団公募研究

4. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

モデレーター	年月日	演題	学会名	開催地
宮崎 晴代	2002.10.24	スタッフは患者さんならびにドクターのニーズにどのように応えられるか	第61回日本矯正歯科学会大会	名古屋

学会招待講演

講演者	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
宮崎 晴代	2002.5.10	A study of models and cephalograms in elderly Japanese over 80 years old with at least 20teeth	The Alexander Discipline 2002 International Symposium	Texas, USA
古賀 正忠	2002.10.23	臨床セミナー MBT システム	第61回日本矯正歯科学会大会	名古屋
宮崎 晴代	2002.10.23 ~ 24	認定委員会症例展示	第61回日本矯正歯科学会大会	名古屋

5. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地	備考
長谷部利一	2002.11.2 ~ 3	第8回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ	参加者	千葉市	

論 文

1. 早川浩太郎⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 西村 亮⁽¹⁾, 海老原 環, 山口秀晴⁽¹⁾, 高橋 賢⁽²⁾, 平井義人⁽²⁾, 石川達也⁽²⁾: 体重4分割バランスによる重心変動値と咬合状態との関連 骨格性下顎前突症患者を対象として, 全身咬合 **8**(1), 37~48, 2002. 原著 (1)矯正, (2)保存
2. Yamaguchi, D.⁽¹⁾, Motegi, E.⁽¹⁾, Nomura, M.⁽¹⁾, Narimiya, Y.⁽¹⁾, Katsumura, S., Miyazaki, H., Kaji, H.⁽²⁾, Watanabe, K.⁽²⁾, Yamaguchi, H.⁽¹⁾: Evaluation of psychological factors in orthodontic patients with TMD as applied to the " TMJ Scale ", Bull Tokyo Dent Coll **43**(2), 83~87, 2002. 原著 (1)矯正, (2)東京都
3. Ueda, K., Motegi, E.⁽¹⁾, Yata, R.⁽²⁾, Torikai, T.⁽¹⁾, Harazaki, M.⁽¹⁾, Yamaguchi, H.⁽¹⁾: Lip seal study of Japanese adults with malocclusion, Bull Tokyo Dent Coll **43**(2), 89~93, 2002. 原著 (1)矯正, (2)東京都
4. 平久忠輝⁽¹⁾, 古賀正忠, 渡辺和也⁽²⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽³⁾: Programmed and Preadjusted Appliance System における bracket position の検討 日本人不正咬合者の set up model を用いた計測学的研究, 歯科学報 **102**(5), 335~344, 2002. 原著 (1)神奈川県, (2)東京都, (3)矯正
5. 和知 学, 古賀正忠, 山口秀晴⁽¹⁾: SLIDING MECHANICS を用いて空隙閉鎖を行った上下顎前歯の前突を示す2症例, 歯科学報 **102**(6), 465~481, 2002. 臨床 (1)矯正
6. 山口尊生⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 宮崎晴代, 成宮幸枝⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 副島詩子⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 海老原 環, 山口大輔⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 関口 基⁽²⁾: 千葉県館山市における生涯大学校生の口腔内診査と骨密度検診結果について, 全身咬合会誌 **8**(2), 169~172, 2002. 原著 (1)矯正, (2)千葉
7. 田中千元, 荒川知久⁽¹⁾, 篠原寿和⁽²⁾, 片田英憲⁽³⁾, 山口秀晴⁽³⁾: 下顎側方偏位の三次元有限要素法による解析, 歯科学報 **103**(2), 169~180, 2003. 原著 (1)千葉県, (2)東京都, (3)矯正
8. 辻野啓一郎⁽¹⁾, 島田 淳⁽²⁾, 大澤広晃⁽³⁾, 宮崎晴代, 福田謙一⁽⁴⁾, 高野正行⁽⁵⁾, 森山貴史⁽⁶⁾, 鈴木 聡⁽⁷⁾, 金子 謙⁽⁸⁾: 平成12年度水道橋病院臨床報告 過去5年間の水道橋病院の動きと平成12年度診療内容, 歯科学報 **102**(7), 597~619, 2003. 臨床 (1)水病・小児歯科, (2)水病・スポーツ歯科, (3)水病・補綴科, (4)水病・麻酔科, (5)水病・口外科, (6)水病・保存科, (7)水病・総合歯科, (8)歯麻

単行図書

1. 宮崎晴代^(a): 著分担: 反対咬合治療のコンセンサスを求めて (a) [2 編] 第1期治療の開始前 第1章 反対咬合治療の臨床的意義 8020達成者に学ぶ 33~37頁, 東京臨床出版, 東京, 2002.
2. 宮崎晴代^(a): 著分担: the Quintessence Year Book 今日の治療指針 02^(a)8020達成者の咬合 264~265頁, クインテッセンス出版, 東京, 2002.
3. 宮崎晴代^(a): 著分担: 臨床家のための矯正 Year Book 02 (a)矯正歯科来院患者における不正咬合と歯科治療状況の関連について 124~128頁, クインテッセンス出版, 東京, 2002.

4. 宮崎晴代^(a): 著分担: 矯正歯科外来患者のホワイトニングに関する意識調査からみえてくるもの, ホワイトニング 審美歯科のメインストリーム (a)矯正歯科外来患者のホワイトニングに関する意識調査からみえてくるもの 104~109頁, 歯界展望別冊, 東京, 2003.

調査報告

1. 宮崎晴代^(a): 平成14年度8020公募研究事業研究報告書 (a)8020達成者の咬合および顎顔面形態に関する調査 咬合状態は8020達成に関与するか 37~55頁, 財団法人8020推進財団, 2003.

学会抄録

1. 市村賢太郎⁽¹⁾, 荒川知久⁽²⁾, 田中千元, 片田英憲⁽¹⁾, 坂本輝雄⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 仮骨延長術による下顎骨への影響に関する力学的検討, 第8回日本コンピューター歯科医学会プログラム・抄録集, 14~15, 2002. (第8回日本コンピューター歯科医学会, 東京) (1)矯正, (2)千葉市
2. Kobayashi, M.⁽¹⁾, Yoshii, K.⁽¹⁾, Narimiya, Y.⁽¹⁾, Ueda, K., Onuki, A., Ono, K.⁽¹⁾, Katsumura, S., Kawamura, M.⁽¹⁾, Kiyomoto, K., Nezu, M.⁽¹⁾, Yata, R.⁽¹⁾, Nishii, Y.⁽¹⁾, Yamaguchi, H.⁽¹⁾: Case report of Angle class malocclusion from the post-graduate course, On site program of 102nd Annual Session of American Association Orthodontists, 49, 2002. (102nd Annual Session of American Association Orthodontists, Philadelphia, USA) (1)矯正
3. Yamaguchi, T.⁽¹⁾, Motegi, E.⁽¹⁾, Nomura, M.⁽¹⁾, Miyazaki, H., Takeuchi, H.⁽¹⁾, Simizu, T.⁽¹⁾, Yamaguchi, H.⁽¹⁾, Hirai, M.⁽²⁾: Bone mineral density of elderly with more than 20 teeth, Program of the 80th General Session of the IADR, 265, 2002. (80th General Session of the IADR, SanDiego, USA) (1)矯正, (2)東京都
4. 三代真義⁽¹⁾, 阿部輝美, 三宅晶子⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽²⁾: 小児の口蓋前方部に加わる舌圧の測定, 小児歯誌 40(2), 272, 2002. (第40回日本小児歯科学会大会総会, 千葉市) (1)矯正 (2)小児歯
5. 末石研二⁽¹⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾: Antley - Bixler Syndrome の1症例, 小児歯誌 40(2), 415, 2002. (第40回日本小児歯科学会大会および総会, 千葉市) (1)矯正
6. Miyazaki, H.: A study of model and cephalograms in elderly Japanese over 80 years old with at least 20 teeth, On site program of The Alexander discipline 2002 international symposium, 3, 2002. (The Alexander discipline 2002 international symposium, Texas, USA)
7. 黒柳和佳子⁽¹⁾, 増淵牧子⁽¹⁾, 小貫暁美, 西井 康⁽¹⁾, 野嶋邦彦⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 顎外科手術による顔面軟組織の三次元的変化, 歯科学報 102(6), 513, 2002. (第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)矯正
8. 宮崎晴代: スタッフ・アンド・ドクターセミナースタッフは患者さんならびにドクターのニーズにどのように応えられるか, 日矯正歯会61回抄集, 89, 2002. (第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市)
9. 浅井保彦⁽¹⁾, 平出隆俊⁽¹⁾, 浅野央男⁽¹⁾, 田中進平⁽¹⁾, 柄博治⁽¹⁾, 土持 正⁽¹⁾, 福井隆彦⁽¹⁾, 堀内敦彦⁽¹⁾, 正木史洋⁽¹⁾, 宮崎晴代: 認定委員症例報告, 日矯正歯会61回抄集, 104, 2002. (第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市) (1)日本矯正歯科学会認定委員会

10. 西村文邦⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 副島詩子⁽¹⁾, 阿部輝美, 海老原 環, 石山知香子⁽¹⁾, 今井加奈子⁽¹⁾, 白石 圭⁽¹⁾, 本多礼乃⁽¹⁾, 三田起代恵⁽¹⁾, 三宅晶子⁽¹⁾, 長谷部利一, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 卒後研修課程第25期生による症例展示 リテンションケース, 日矯正歯会61回抄集, 254, 2002.(第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市)(1)矯正
11. 西村文邦⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 副島詩子⁽¹⁾, 阿部輝美, 海老原 環, 石山知香子⁽¹⁾, 今井加奈子⁽¹⁾, 白石 圭⁽¹⁾, 本多礼乃⁽¹⁾, 三田起代恵⁽¹⁾, 三宅晶子⁽¹⁾, 長谷部利一, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 卒後研修課程第25期生による症例展示, 日矯正歯会61回抄集, 254, 2002.(第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市)(1)矯正
12. 西村文邦⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 副島詩子⁽¹⁾, 阿部輝美, 海老原 環, 石山知香子⁽¹⁾, 今井加奈子⁽¹⁾, 白石 圭⁽¹⁾, 本多礼乃⁽¹⁾, 三田起代恵⁽¹⁾, 三宅晶子⁽¹⁾, 長谷部利一, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 卒後研修課程第25期生による症例展示, 歯科学報 102(10), 791, 2002.(第274回東京歯科大学学会総会, 千葉市)(1)矯正
13. 佐々木美央⁽¹⁾, 副島詩子⁽¹⁾, 西村文邦⁽¹⁾, 阿部輝美, 海老原 環, 石山知香子⁽¹⁾, 今井加奈子⁽¹⁾, 白石 圭⁽¹⁾, 本多礼乃⁽¹⁾, 三田起代恵⁽¹⁾, 三宅晶子⁽¹⁾, 長谷部利一, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 卒後研修課程第25期生による症例展示 リテンションケース, 歯科学報 102(10), 791, 2002.(第274回東京歯科大学学会総会, 千葉市)(1)矯正
14. 芳野亜希子⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 宮崎晴代, 副島詩子⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 平井基之⁽²⁾, 関口 基⁽³⁾: “8025達成者”における咬合型と顔面型の関連性について, 歯科学報 102(10), 832, 2002.(第274回東京歯科大学学会総会, 千葉市)(1)矯正, (2)東京都, (3)千葉市
15. 北総博之⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 宮崎晴代, 山口尊生⁽¹⁾, 鈴木祥子⁽¹⁾, 芳野亜希子⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 高根ユミ⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 平井基之⁽²⁾, 関口 基⁽³⁾, 高根 宏⁽³⁾: 超音波骨密度測定による8020達成者と養護施設高齢者の比較, 日全身咬合会12回プログラム・抄集, 53, 2002.(第12回日本全身咬合学会プログラム・抄録集, 大阪市) 保情研 (1)矯正, (2)東京都, (3)千葉県
16. 鈴木祥子⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 早川浩太郎⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 野口祐輔⁽²⁾, 佐藤 亨⁽²⁾, 平井義人⁽³⁾, 石川達也⁽³⁾: 8020達成者におけるバランス体重計による重心変動について, 歯科学報 102(10), 833, 2002.(第274回東京歯科大学学会総会, 千葉市) 保情研 (1)矯正, (2)補綴, (3)保存
17. 宮崎晴代, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 芳野亜希子⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾, 関口 基⁽²⁾, 尾崎至郎⁽²⁾, 井上 孝⁽³⁾, 眞木吉信⁽⁴⁾: 平成13年度千葉県8020達成者の調査報告 咬合と口腔保健状況について, 第11回千葉県歯科医学大会プログラム・抄録集, 85, 2003.(第11回千葉県歯科医学大会, 千葉市)(1)矯正, (2)千葉県歯科医師会, (3)臨検査, (4)衛生
18. 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 副島詩子⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 山口大輔⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 谷田部賢一, 関口 基⁽²⁾, 平井基之⁽³⁾: 8020達成者の顔貌のバランスについて, 第11回千葉県歯科医学大会プログラム・抄録集, 85, 2003.(第11回千葉県歯科医学大会, 千葉市)(1)矯正, (2)千葉市, (3)東京都

19. 茂木悦子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 高根ユミ⁽¹⁾, 片山裕美⁽¹⁾, 北総博之⁽¹⁾, 鈴木祥子⁽¹⁾, 芳野亜希子⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾, 関口 基⁽²⁾, 尾崎至郎⁽²⁾, 平井基之⁽³⁾, 石井 武⁽⁴⁾, 井上 孝⁽⁵⁾, 石原和幸⁽⁶⁾, 奥田克爾⁽⁶⁾, 眞木吉信⁽⁷⁾, 山中すみへ⁽⁷⁾, 佐藤 亨⁽⁸⁾, 和光 衛⁽⁸⁾, 高根 宏⁽²⁾: 8020研究の概要と今後の展望, 第11回千葉県歯科医学大会プログラム・抄録集, 86, 2003. (第11回千葉県歯科医学大会, 千葉市) 保情研 (1)矯正, (2)千葉県, (3)東京都, (4)沖縄県, (5)臨検査, (6)微生物, (7)衛生, (8)補綴, (9)歯放
20. 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 芳野亜希子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 山口秀晴⁽¹⁾: 歯が数多く残っている高齢者の顔について, 日本顔学会誌 2(1), 203, 2003. (第7回日本顔学会, 新潟市) (1)矯正
21. 鈴木祥子⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 早川浩太郎⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 野口祐輔⁽²⁾, 佐藤 亨⁽²⁾, 関口基⁽³⁾: 4分割バランス体重計による8020達成者の姿勢について, 日矯正歯会61回抄集, 139, 2003. (第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市) (1)矯正, (2)補綴, (3)千葉市
22. 末石研二⁽¹⁾, 田中千元, 長谷部利一, 坂本輝雄⁽¹⁾, 宮崎晴代, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾: 鎖骨頭蓋異形成症は理解されているか, 日矯正歯会61回抄集, 244, 2003. (第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市) (1)矯正
23. 荒川忠博⁽¹⁾, 平岡 修⁽²⁾, 土屋喜子, 末石研二⁽³⁾, 扇内秀樹⁽¹⁾: Duchenne型筋ジストロフィー症の1矯正治験, 日矯正歯会61回抄集, 269, 2003. (第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市) 脳科学研 (1)東女子医・口外, (2)東京都, (3)矯正
24. 野村真弓⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 芳野亜希子⁽¹⁾, 副島詩子⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 山口大輔⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 関口 基⁽²⁾, 平井基之⁽³⁾: 8020達成者の顔貌のバランスと調和, 日矯正歯会61回抄集, 274, 2003. (第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市) (1)矯正, (2)千葉市, (3)東京都
25. 末石研二⁽¹⁾, 大内 豪⁽¹⁾, 山口大輔⁽¹⁾, 田中千元, 長谷部利一, 山口秀晴⁽¹⁾: 鎖骨頭蓋異形成症患者の矯正歯科受診時口腔内状況に関する調査, 歯科学報 102(10), 831, 2003. (第274回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)矯正
26. 芳野亜希子⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 宮崎晴代, 副島詩子⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 平井基之⁽²⁾, 関口 基⁽³⁾: 8020達成者の歯列と顔面型の関連性について, 日矯正歯会61回抄集, 108, 2003. (第61回日本矯正歯科学会大会, 名古屋市) (1)矯正, (2)東京都, (3)千葉市

6. 口 腔 外 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	柿澤 卓	非進展口腔癌に対する予後推測因子 (A 98 0470 8)
講 師	松井 隆	口腔外科領域における偶発症の検討
	高野 正行	粘膜染色による口腔粘膜疾患の診断 (A 98 0470 13)
助 手	山 満	初期口腔癌の診断と治療
	横山 葉子	症候群と顎嚢胞との関連 (A 98 0470 11)
	高崎 義人	末梢神経の障害と再生に関する研究
	秋元 善次	顎変形症患者における咬合平面と頸椎との関連について
	瀬田 修一	顎顔面外傷の原因による臨床的特徴
病院助手	小泉 陽子	ヒト口腔カンジダ菌に関する検出・同定に関する研究
	高久勇一朗	歯科入院患者の感染症に関する統計
	菊地 徹行	顎変形症患者におけるオトガイ神経知覚鈍麻に関する研究
	今井 崇之	外来口腔外科処置の臨床統計
	岡村 大器	水道橋病院口腔外科における高齢者の臨床統計
	北浦 宏明	顎変形症患者の術前術後の心理変化の比較
	桑山 真寧	水道橋病院口腔外科における口腔良性腫瘍の臨床統計
	虎谷 尚孝	顎骨良性腫瘍の臨床的研究
	東田亜樹子	新しい骨接合素材の安定性について
	廣瀬 史子	口腔外科症手術予後の検討

2. 成果の概要

1) ヨード・トルイジンブルー染色を用いた口腔前癌病変と早期癌の臨床分類

最近5年間に当科に来院した口腔前癌病変およびその一部に微小な早期癌の発生が疑われる口腔粘膜病変の計90症例を対象として、ヨード・トルイジンブルーによる粘膜染色テストの結果から病変を4グループに分類して切除標本による病理組織学的診断と比較検討した。

上皮異形成が中等度以下のものは、グループ1(ともに陰性)では85.7%だが、グループ4(ともに陽性)では12.0%のみであった。一方グループ4では88.0%が扁平上皮癌、早期浸潤癌または上皮内癌または高度上皮性異形成であったのに対し、グループ1では14.3%に過ぎなかった。Sensitivityはヨード単独で50.0%、トルイジンブルー単独で84.6%、併用では88.0%であった。Specificityはヨードで86.1%、トルイジンブルーでは84.4%、併用で85.7%であった。本法は上皮性異形成の範囲確定や腫瘍の発見のみでなく、その染色結果をもとにした臨床分類により口腔前癌病変の癌化にいたるレベル分けに有用なものと考えられる。

3. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地	備 考
柿澤 卓	2002.4.18	口腔外科実績報告	第一回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京	
秋元 善次	2002.4.18	抜歯のEBMに向けて	第一回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京	
桑山 真寧	2002.4.18	白板症状の一部に認められた扁平上皮癌の一例	第一回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京	
岡村 大器	2002.4.18	鼻腔穿孔した歯内骨内インプラントの一例	第一回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京	
高野 正行	2002.4.18	口腔粘膜疾患と前癌病変 初期の癌をみわけるために	第一回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京	
高崎 義人	2002.4.18	医源性神経麻痺と対処 根管治療後の神経麻痺 について	第一回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京	
松井 隆	2002.4.18	保険請求上の注意点	第一回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京	

教育ワークショップ等

氏 名	年月日	ワークショップ名	役 割	開催地	備 考
山 満	2002.11.2 ~ 3	第8回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	参加者	千葉市	

論 文

1. 矢島安朝⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 山本信治⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 畑田憲一⁽¹⁾, 高野正行: 舌癌 excisional biopsy におけるヨード生体染色の有用性, 日口腔腫瘍会誌 13(4), 277~282, 2001. 原著 (1)口外
2. 柿澤 卓: エリスロポエチン(EPO)を用いた液状保存貯血式自己血輸血に関する臨床的研究, 歯科学報 101(12), 1165~1172, 2001. 原著
3. 高野正行, 柿澤 卓, 高崎義人, 瀬田修一, 野間弘康⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾: ヨード・トルイジンブルー染色テストを用いた口腔前癌病変と早期癌の臨床分類, 頭頸部腫瘍 28(1), 41~46, 2002. 原著 (1)口外
4. 野村幸恵, 野間弘康⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 山 満, 高野正行, 柿澤 卓, 井上 孝⁽²⁾: 明確な腫瘍塊を形成しなかった顎骨腺様嚢胞癌の1例, 日口腔腫瘍会誌 14(2), 63~69, 2002. 症例 A 0611 2 (1)口外, (2)臨検査
5. 柿澤 卓, 松井 隆, 高野正行, 横山葉子, 松田玉枝, 大鶴 洋⁽¹⁾: 上顎に発生した口腔トリコモナス症の1例, 日口腔外会誌 48(8), 427~430, 2002. 原著 (1)国立病院東京医療センター・口外
6. 辻野啓一郎⁽¹⁾, 島田 淳⁽²⁾, 宮崎晴代⁽³⁾, 福田謙一⁽⁴⁾, 高野正行, 森山貴史⁽⁵⁾, 鈴木 聡⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁷⁾: 平成12年度水道橋病院臨床報告 過去5年間の水道橋病院の動きと平成12年度診療内容, 歯科学報 102(7), 597~619, 2003. 臨床 (1)水病・小児歯科, (2)水病・スポーツ歯科, (3)水病・矯正科, (4)水病・麻酔科, (5)水病・保存科, (6)水病・総合歯科, (7)歯麻

解 説

1. 矢島安朝⁽¹⁾, 高野正行: 早期口腔癌発見のための生体染色法, 東京歯医師会誌 50(11), 113~118, 2002. (1)口外

単行図書

1. 柿澤 卓(a), (b), (c), (e), 高野正行(d), 野間弘康⁽¹⁾(d): 著分担: 口腔顎顔面外科学総論 (a)口腔に異常を現す系統的骨疾患 224~229頁, (b)外科的保存法 325~328頁, (c)外科的矯正法 335~343頁, (d)病巣除去手術, 異物除去手術 348~350頁, (e)形成・再建手術 350~358頁, 医歯薬出版, 東京, 2000. 平成12年度分 (1)口外
2. 柿澤 卓(a): 著分担: 口腔顎顔面外科学各論 (a)9. 骨系統疾患 115~126頁, 医歯薬出版, 東京, 2000. 平成12年度分
3. 高崎義人(a), (b), (c), 田村英俊⁽¹⁾(c): 著分担: カラーグラフィックス下歯槽神経麻痺 (a)4章神経損傷の診断と評価・各種診断法28~39頁, (b)5章浸潤麻酔・伝達麻酔後の下歯槽神経麻痺 51~66頁, (c)11章顎矯正手術時の下歯槽神経麻痺 145~161頁, 医歯薬出版, 東京, 2001. 平成13年度分 (1)亀田総合病院・口外
4. 柿澤 卓(a): 著分担: イラストレイテッド・クリニカルデンティストリー 3 咬合・咀嚼障害・顎口腔疾患 (a)埋伏智歯の抜歯の基本術式 158~163頁, 医歯薬出版, 東京, 2001. 平成13年度分

5. 柿澤 卓^(a): 著分担: イラストレイテッド・クリニカルデンティストリー 3 咬合・咀嚼障害・顎口腔疾患
(a)埋伏智歯の抜歯の基本術式 158~163頁, 医歯薬出版, 東京, 2001. 平成13年度分
6. 高崎義人^(a): 著分担: 口腔外科 YEARBOOK 一般臨床家, 口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル 03
(a)第6章 2 全身管理からトラブル予防まで 神経麻痺にどう対応するか 症状と患者に対する説明 243
~248頁, クインテッセンス出版, 東京, 2003.

調査報告

1. 白阪琢磨⁽¹⁾主任研究, 池田正一⁽²⁾, 前田憲昭⁽³⁾, 小森康雄⁽⁴⁾, 柿澤 卓, 田上 正⁽⁵⁾, 樋口勝規⁽⁶⁾, 栗原英見⁽⁷⁾, 稲葉 修⁽⁸⁾, 玉城廣保⁽⁹⁾, 宮田 勝⁽¹⁰⁾, 高木律男⁽¹¹⁾, 山口 泰⁽¹²⁾, 村井雅彦⁽¹³⁾, 久保寺友子⁽¹⁴⁾: 厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV 感染症の歯科医療に関する研究 平成13年度研究報告書, HIV 感染症の医療体制に関する研究 国立大阪病院臨床研究部ウイルス研究室 2002. (1)国立大阪病院・臨床研究部, (2)神奈川県立こども医療センター・歯科, (3)医療法人社団皓歯会, (4)東医大・口外, (5)国立国際医療センター・口外, (6)国立病院九州医療センター・口外, (7)広島大・歯・保存, (8)国立大阪病院・口外, (9)国立名古屋病院・口外, (10)石川県立中央病院・口外, (11)新潟大・歯・口外, (12)国立仙台病院・口外 (13)愛知県歯科医師会 (14)神奈川県立こども医療センター歯科

その他

1. 高野正行: 歯科医院での効果的で安全な投薬, メディカルビュー(138), 2002.

学会抄録

1. 東田亜樹子, 瀬田修一, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓: Le Fort 型骨切り術における吸収性ポリ-L-乳酸(PLLA)プレートの使用経験, 日顎変形会誌 12(3), 135, 2002. (第12回日本顎変形症学会総会, 大阪市)
2. Takano, M., Kakizawa, T., Koizumi, Y., Nomura, S.⁽¹⁾: The disease of a high-sensitivity Candida mannan test (ELISA-based assay) from saliva samples, J Dent Res 81(Special Issue A), A-263, 2002. (80th General Session of the IADR, San Diego, USA) (1)口外
3. Hatada, K.⁽¹⁾, Noma, H.⁽¹⁾, Katakura, A.⁽¹⁾, Yama, M., Takano, M., Takagi, T.⁽¹⁾, Yajima, Y.⁽¹⁾, Shibahara, T.⁽¹⁾, Kakizawa, T.: Clinicostatistical study of ameloblastoma treatment, J Dent Res 81(Special Issue A) A-288, 2002. (80th General Session of the IADR, San Diego, USA) (1)口外
4. Furuya, Y.⁽¹⁾, Yamauchi, T.⁽¹⁾, Takano, M., Yajima, Y.⁽¹⁾, Noma, H.⁽¹⁾: Experimental study on the osteogenesis process around dental implants in vascularized bone replantations, J Dent Res 81(Special Issue A) A-367, 2002. (80th General Session of the IADR, San Diego, USA) (1)口外
5. Yajima, Y.⁽¹⁾, Tazaki, M.⁽²⁾, Takeda, E.⁽¹⁾, Abe, S.⁽³⁾, Inoue, T.⁽⁴⁾, Katakura, A.⁽¹⁾, Satou, T.⁽⁵⁾, Kakizawa, T., Ide, Y.⁽³⁾: The primary gustatory area in the human cerebral cortex examined by magnetoencephalography (MEG): differences caused by gustatory qualities, stimulus densities, thermal stimulus in active location and variation in reaction time, Bull Tokyo Dent Coll 43(2), 106~107, 2002. (2002 Workshop Oral Health Science Center Tokyo Dental College, Chiba) 脳科学研 (1)口外, (2)生理, (3)解剖, (4)臨検査, (5)補綴
6. 秋元善次, 松田玉枝, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 松井 隆, 柿澤 卓: 抜歯のEBMに関する研究 第一報下顎智歯の抜歯理由と意識, 日口腔科会誌 51(6), 513, 2002. (第56回日本口腔科学会総会, 大阪市)

7. 小泉陽子, 高野正行, 柿澤 卓, 野村幸恵⁽¹⁾: 高感度カンジダマンナン検出 ELISA 法による口腔カンジダ関連病変の治療効果判定, 日口腔科会誌 **56**(6), 554 ~ 555, 2002 .(第56回日本口腔科学会総会, 大阪市) (1)口外
8. 廣瀬史子, 岡村大器, 高久勇一郎, 瀬田修一, 柿澤 卓, 嶋 香織⁽¹⁾: 上顎に発生した歯原性線維腫の1例, 歯科学報 **102**(6), 524, 2002 .(第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 細形研 (1)病理
9. 田中千早⁽¹⁾, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 山口晋一⁽¹⁾, 高木 亮⁽¹⁾, 原宣道⁽²⁾, 西堀陽平⁽²⁾, 高崎義人, 高木多加志⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 内山健志⁽²⁾, 野間弘康⁽¹⁾: 舌神経知覚障害の診断下に神経修復術を施行した3例, 歯科学報 **102**(6), 534, 2002 .(第273回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)口外 , (2)口外
10. 古谷義隆⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 高野正行, 矢島安朝⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾: 血管柄付移植骨内へのインプラント埋入実験に関する検討, 日本顎顔面インプラント学会誌 **1**(1), 37, 2002 .(第5回日本顎顔面インプラント学会総会, 京都市) 細形研 実動施設 (1)口外
11. 久保守友子⁽¹⁾, 池田正一⁽¹⁾, 柿澤 卓: 歯科治療後に下顎骨骨膜炎を生じた本態性血小板血症の1例, 障害者歯 **23**(3), 413, 2002 .(第18回日本障害者歯科学会総会及び学術大会, 宜野湾市) (1)神奈川県立こども医療センター・歯科
12. 高久勇一郎, 池田博康, 横山葉子, 柿澤 卓, 松坂賢一⁽¹⁾, 小池吉彦⁽²⁾: 小児に発生した中心性巨細胞肉芽腫の1例, 日口腔外会誌 **48**(9), 480 ~ 481, 2002 .(第172回日本口腔外科学会関東地方会, 東京) (1)臨検査, (2)病理
13. 高崎義人, 秋元善次, 高久勇一郎, 高野正行, 柿澤 卓, 半田俊之⁽¹⁾, 笠原正貴⁽²⁾, 福田謙一⁽²⁾, 武田孝之⁽³⁾: インプラント埋入後のオトガイ神経知覚障害に対する知覚検査法の検討, 日口腔インプラント会第32回抄集, 68, 2002 .(第32回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 広島市) (1)歯麻, (2)水病・麻酔科, (3)水病・インプラント外来
14. 秋元善次, 高久勇一郎, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 浅田智宏⁽¹⁾, 安達 康⁽¹⁾, 廣瀬理子⁽²⁾, 武田孝之⁽³⁾, 飯島俊一⁽³⁾, 椎貝達夫⁽³⁾: 上顎洞底挙上術に関する検討, 日口腔インプラント会第32回抄集, 144, 2002 .(第32回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 広島市) (1)水病・補綴科, (2)水病・保存科, (3)水病・インプラント外来
15. 柿澤 卓: エイズ歯科医療体制はどうあるべきか~ HIV 感染者受け入れ体制整備と意識改革に向けて~, 日エイズ会誌 **4**(4), 267, 2002 .(第16回日本エイズ学会学術集会・総会, 名古屋市)
16. 北浦宏明, 柿澤 卓, 高野正行, 小泉陽子: 高感度 ELISA 法による唾液中カンジダマンナン抗原の有用性, 老年歯医 **17**(2), 238 ~ 239, 2002 .(第13回日本老年歯科医学会総会, 広島市)
17. 菊地徹行, 高久勇一郎, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 野間弘康⁽¹⁾: オトガイ神経支配領域における知覚検査法についての臨床的研究 動的触覚検査と二点識別閾検査の正常値について, 日口腔科会誌 **51**(6), 552, 2002 .(第56回日本口腔科学会総会, 大阪市) (1)口外
18. 高崎義人, 野間弘康⁽¹⁾, 齋藤 力⁽²⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 米津博文⁽²⁾, 浜瀬真紀⁽¹⁾: 根管治療による下歯槽神経知覚障害 定量的知覚検査法による観察と本邦報告例の検討, 日口腔科会誌 **51**(6), 553, 2002 .(第56回日本口腔科学会総会, 大阪) (1)口外 , (2)口外

19. Shima, K.⁽¹⁾, Hashimoto, S.⁽¹⁾, Enokiya, Y.⁽¹⁾, Muramatsu, T.⁽¹⁾, Takasaki, Y., Matsuzaka, K.⁽²⁾, Inoue, T.⁽²⁾, Shimono, M.⁽¹⁾ : Immunohistochemical study of benign cementoblastoma of the mandible, Oral Med Pathol 7(2), 92, 2002. (13th Annual Meeting of the Japanese Society for Oral Pathology, Tokyo) A79 0160 23
細形研 (1)病理, (2)臨検査
20. 山下優花⁽¹⁾, 田村耕一郎⁽¹⁾, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 高崎義人, 高木多加志⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾ : 下顎枝矢状分割法術後の知覚障害の検討 オルソパントモグラムを用いた下顎管の矢状分割距離, 日顎変形会誌 12(3), 162~163, 2002. (第12回日本顎変形症学会総会, 大阪市) 脳科学研 (1)口外
21. 横山葉子, 柿澤 卓, 高野正行, 松田玉枝, 井上 孝⁽¹⁾, 松坂賢一⁽¹⁾ : 上顎に発生した外向性發育を認めたエナメル上皮腫の一例, 日口腔腫瘍会誌 14(4), 181, 2002. (第20回日本口腔腫瘍学会総会, 岡山市) (1)臨検査
22. 岡村大器, 秋元善次, 高崎義人, 山 満, 柿澤 卓, 松坂賢一⁽¹⁾ : 口蓋に生じた筋上皮腫の2例, 日口外会誌 48(12), 642, 2002. (第173回日本口腔外科学会関東地方会, 前橋市) (1)臨検査
23. 浜瀬真紀⁽¹⁾, 山口晋一⁽¹⁾, 高崎義人, 高木多加志⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 大鶴 洋⁽²⁾ : オトガイ神経知覚障害の評価 下顎枝矢状分割法術後について, 日口腔外会誌 48(13), 699, 2002. (第47回日本口腔外科学会総会, 札幌市)
(1)口外, (2)国立東京医療センター・口外
24. 高崎義人, 野間弘康⁽¹⁾, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 山口晋一⁽¹⁾, 高野正行, 佐々木研一⁽²⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 山根源之⁽³⁾, 柿澤 卓 : 神経修復手術後の知覚機能評価に関する臨床的検討 SW 知覚検査システムによる評価法の留意点について, 日口腔外会誌 48(13), 700, 2002. (第47回日本口腔外科学会総会, 札幌市) (1)口外, (2)亀田総合病院・口外, (3)市病・オーラルメディスン
25. 高野正行, 小泉陽子, 北浦宏明, 桑山真寧, 高崎義人, 柿澤 卓, 矢島安朝⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 松坂賢一⁽²⁾, 井上 孝⁽²⁾, 村松 敬⁽³⁾ : 口腔前癌変病の癌化に伴う臨床症状の変化についての検討 特に口腔粘膜染色テストの有用性について, 日口腔外会誌 48(13), 701, 2002. (第47回日本口腔外科学会総会, 札幌市)
(1)口外, (2)臨検査, (3)病理
26. 虎溪尚孝, 岡村大器, 北浦宏明, 瀬田修一, 秋元善次, 高崎義人, 横山葉子, 山 満, 柿澤 卓, 高野正行, 松井 隆 : 抜歯のEBMに向けて 第2報 下顎智歯の現症について, 日口腔外会誌 48(13), 838, 2002. (第47回日本口腔外科学会総会, 札幌市)
27. 今井崇之, 桑山真寧, 菊池徹行, 小泉陽子, 高久勇一朗, 瀬田修一, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下歯槽神経血管束露出症例のオトガイ神経知覚障害の回復過程に対する臨床的検討, 日口腔外会誌 48(13), 851, 2002. (第47回日本口腔外科学会総会, 札幌市)
28. 桑山真寧, 北浦宏明, 小泉陽子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 松坂賢一⁽¹⁾, 井上 孝⁽¹⁾ : 当科における口腔白板症の臨床病理学的検討, 日口腔外会誌 48(13), 885, 2002. (第47回日本口腔外科学会総会, 札幌市)
(1)臨検査

29. 武田栄三⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 田崎雅和⁽²⁾, 澁川義幸⁽²⁾, 関根秀志⁽³⁾, 阿部伸一⁽⁴⁾, 井上孝⁽⁵⁾, 片倉 朗⁽¹⁾, 佐藤 亨⁽⁶⁾, 柿澤 卓, 井出吉信⁽⁴⁾: MEG 計測による大脳皮質味覚野の特定 口蓋部触刺激による味覚野の応答, 平成14年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 3, 2003. (平成14年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) 脳科学研 (1)口外, (2)生理, (3)補綴, (4)解剖, (5)病理, (6)補綴
30. 瀬田修一, 高崎義人, 高野正行, 山 満, 横山葉子, 秋元善次, 松井 隆, 柿澤 卓: 下顎智歯抜歯における承諾書使用経験と患者意識調査, 第7回口腔顔面神経機能学会プログラム, 2003. (第7回口腔顔面神経機能学会, 鹿児島市)
31. 高崎義人, 瀬田修一, 秋元善次, 高野正行, 柿澤 卓, 浅田智宏⁽¹⁾, 福田謙一⁽²⁾, 遊佐康夫⁽³⁾, 野間弘康⁽⁴⁾: 高度歯槽堤萎縮患者における下歯槽神経知覚障害の1例, 第7回口腔顔面神経機能学会プログラム, 2003. (第7回口腔顔面神経機能学会, 鹿児島市) (1)水病・補綴科, (2)水病・麻酔科, (3)川口市, (4)口外
32. 大多和由美⁽¹⁾, 青木 聡⁽²⁾, 木津康博⁽³⁾, 柿澤 卓, 安達 康⁽⁴⁾, 石上恵一⁽⁵⁾, 石井拓男⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁷⁾, 石川達也⁽⁸⁾: 東京歯科大学水道橋病院における研修医に対するOSCE課題と評価について, 日歯医教会21回抄集, 42, 2003. (第21回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 横浜市) (1)水病・小児歯科, (2)水病・総合歯科, (3)市病・オーラルメディスン, (4)水病・補綴科, (5)スポーツ歯, (6)社会歯, (7)歯麻, (8)保存

7. 歯 科 麻 酔 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 助 手 福田 謙一 神経因性疼痛に対するアデノシン三リン酸の鎮痛作用
 笠原 正貴 口腔外科手術後の知覚神経障害における直線偏光近赤外線星状神経節照射の有用性の検討

2. 成果の概要

1) 神経因性疼痛に対するアデノシン三リン酸の鎮痛作用

アデノシン複合体であるアデノシン三リン酸を口腔顔面神経因性疼痛患者数十名(幻歯痛, complex regional pain syndrome, 帯状疱疹後神経痛, 三叉神経痛, 求心路遮断性疼痛)に, 持続静注及び経口投与にて応用し, その鎮痛効果を visual analogue scale によって判定した. 幻歯痛, complex regional pain syndrome のほとんどの患者にその効果が認められた.

神経因性疼痛は多くの薬物に抵抗する極めて難治性疼痛だけに, アデノシン三リン酸の鎮痛効果は, 今後大いに期待できる. そのメカニズムや副作用などについて, 現在検討中である.

2) 口腔外科手術後の知覚神経障害における直線偏光近赤外線星状神経節照射の有用性の検討

三叉神経知覚障害には星状神経節ブロック療法の有用性が報告されているが, 本法は生体に対して侵襲的である. 一方で非侵襲, かつ生体深達度の高い近赤外線を高出力で照射できる直線偏光型近赤外線治療器を用いた星状神経節照射が行われている. 当科における本法の臨床応用では, その有用性が認められているが, 三叉神経知覚障害の回復過程に対する研究はまだない.

現在, 星状神経節ブロックとの比較において, 口腔粘膜血流量, 顔面温度変化の比較, 回復過程などを検討中である.

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究 課 題	研 究 費
笠原 正貴	口腔外科手術後の神経麻痺における直線偏光近赤外線星状神経節照射の有用性の検討	科学研究費・若手(B)

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
福田 謙一	2002.6.18	難治性口腔顔面痛の診断と治療	東京都立豊島病院	東京
福田 謙一	2002.10.18	口腔顔面痛の診断と治療	東京歯科大学理工懇談会	東京
福田 謙一	2002.11.17	救急蘇生法と救急薬品	千葉市保健医療センター	千葉市
福田 謙一	2002.2.21	歯科麻酔医としての一般診療室へのアドバイス	千葉市歯科医師会	千葉市

論 文

1. 福田謙一：顎関節症を見直す 4. 顎関節症と痛み，歯科学報 102(10)，757～763，2002．総説
2. 笠原正貴，福田謙一，半田俊之⁽¹⁾，村松 淳，金子 譲⁽¹⁾：口腔内 CRPS に対してパロキセチンが効果を示した 2 症例，Pharmacoaesthesiology 15(1)，83～85，2002．症例 (1)歯麻
3. 福田謙一，笠原正貴，半田俊之⁽¹⁾，村松 淳，金子 譲⁽¹⁾：コハク酸スマトリプタン皮下注射が診断に有効だった神経血管性歯痛の 2 症例，Pharmacoaesthesiology 15(1)，86～88，2003．症例 (1)歯麻
4. 辻野啓一郎⁽¹⁾，島田 淳⁽²⁾，大澤広晃⁽³⁾，宮崎晴代⁽⁴⁾，福田謙一，高野正行⁽⁵⁾，森山貴史⁽⁶⁾，鈴木 聡⁽⁷⁾，金子 譲⁽⁸⁾：平成12年度水道橋病院臨床報告 過去 5 年間の水道橋病院の動きと平成12年度診療内容，歯科学報 102(7)，597～619，2003．臨床 (1)水病・小児歯科，(2)水病・スポーツ歯科，(3)水病・補綴科，(4)水病・矯正科，(5)水病・口外科，(6)水病・保存科，(7)水病・総合歯科，(8)歯麻
5. 笠原正貴，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：アデノシンとアムリノンはいヌにおけるフェリプレシンの心筋組織酸素分圧低下作用を改善する，歯科学報 102(9)，743～750，2003．原著 二次出版 (1)歯麻

解 説

1. 笠原正貴，金子 譲⁽¹⁾：シタネスト・オクタプレシン，日歯評論 62(7)，59，2002．(1)歯麻
2. 高北義彦：キシロカインが効かないとき，日歯評論 62(7)，61，2002．
3. 高北義彦：奏功時間，日歯評論 62(7)，62，2002．
4. 高北義彦：マーカイン，日歯評論 62(7)，65，2002．
5. 笠原正貴，金子 譲⁽¹⁾：事故・合併症の発生頻度，日歯評論 62(7)，92，2002．(1)歯麻
6. 福田謙一：ニューロパシー性歯痛の診断と治療，Quintessence 21(9)，177～183，2002．
7. 一戸達也⁽¹⁾，福田謙一，笠原正貴，金子 譲⁽¹⁾：痛みの発生メカニズム，歯界展望 101(1)，131～138，2003．(1)歯麻
8. 福田謙一，笠原正貴，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：非歯原性歯痛の発生メカニズムとその対応，歯界展望 101(2)，337～342，2003．脳科学研 (1)歯麻
9. 笠原正貴，福田謙一，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：神経障害後痛の発生メカニズムとその対応，歯界展望 101(3)，557～562，2003．(1)歯麻

そ の 他

1. 福田謙一：リラックス外来，口腔顔面痛みセンター，東京歯科大学同窓会会報 330，12，2002．
2. 福田謙一：水道橋病院歯科麻酔科の紹介，東京歯科大学同窓会東京地域支部連合会会報 50，14～15，2002．

3. 笠原正貴：歯科麻酔科・口腔顔面痛みセンターにおける漢方治療，東京歯科大学同窓会会報 331，11，2002．
4. 福田謙一：臨床のヒント「口腔顔面領域における異常疼痛」，日歯広報 1252，5，2002．
5. 笠原正貴：東京歯科大学水道橋病院歯科麻酔科，日歯麻会誌 30(5)，663～665，2003．
6. 笠原正貴：Peripheral Amitriptyline Suppresses Formalin - Induced Fos Expression in the Rat Spinal Cord，ペインクリニック 24(1)，125，2003．文献抄訳

学会抄録

1. 一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾，間宮秀樹⁽¹⁾，縣 秀栄⁽¹⁾，笠原正貴，松浦信幸⁽¹⁾，川口 充⁽²⁾，柴原孝彦⁽³⁾，米津博文⁽⁴⁾，澁川義幸⁽⁵⁾：顎顔面領域の慢性難治性疼痛に対する治療指針の検討，東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集，2002．(平成14年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ，千葉市)脳科学研(1)歯麻，(2)薬理，(3)口外，(4)口外，(5)生理
2. 福田謙一，笠原正貴，半田俊之⁽¹⁾，村松 淳⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：幻歯痛の病態を考える，口腔顔面痛懇談会第3回研究会プログラム・抄録集，6，2002．(口腔顔面痛懇談会第3回研究会，福岡市)(1)歯麻
3. 笠原正貴，福田謙一，半田俊之⁽¹⁾，村松 淳，金子 譲⁽¹⁾：ABC症候群を呈した抜歯後神経因性疼痛の一例，口腔顔面痛懇談会第3回研究会プログラム・抄録集，6，2002．(口腔顔面痛懇談会第3回研究会，福岡市)(1)歯麻
4. 半田俊之⁽¹⁾，笠原正貴，福田謙一，村松 淳，金子 譲⁽¹⁾：下顎枝矢状分割術後，オトガイ神経軽度知覚鈍麻後アロディニアを発症した一例，口腔顔面痛懇談会第3回研究会プログラム・抄録集，7，2002．(口腔顔面痛懇談会第3回研究会，福岡市)(1)歯麻
5. 半田俊之⁽¹⁾，上谷陽一郎⁽¹⁾，笠原正貴，福田謙一，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛21症例の治療法及び予後に関する検討 第19回関東臨床歯科麻酔懇話会日本歯科麻酔学会地方会プログラム，7，2002．(第19回関東臨床歯科麻酔懇話会日本歯科麻酔学会地方会，東京)(1)歯麻
6. 福田謙一，半田俊之⁽¹⁾，笠原正貴，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：神経血管性歯痛から麻酔抜髄の施行によって，幻歯痛に移行したと考えられた1症例，第19回関東臨床歯科麻酔懇話会日本歯科麻酔学会地方会プログラム，8，2002．(第19回関東臨床歯科麻酔懇話会日本歯科麻酔学会地方会，東京)(1)歯麻
7. Kasahara, M., Shibukawa, Y.⁽¹⁾, Matsuura, N.⁽²⁾, Ichinohe, T.⁽²⁾, Suzuki, T.⁽¹⁾, Kaneko, Y.⁽²⁾ : Effect of an NMDA receptor antagonist on pain - related somatosensory evoked magnetic fields (pain - SEFs) evoked by trigeminal nerve stimulation, Neuroimage (CD - ROM) 2002 .(8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain, Sendai) 脳科学研(1)生理，(2)歯麻
8. 野村 仰⁽¹⁾，加納美穂子⁽¹⁾，松木由起子⁽¹⁾，中田真理⁽¹⁾，笠原正貴，縣 秀栄⁽¹⁾，間宮秀樹⁽¹⁾，阿部耕一郎⁽¹⁾，櫻井 学⁽¹⁾，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：千葉病院歯科麻酔科外来における2001年1月から2001年12月までのペインクリニック症例の治療法についての検討，歯科学報 102(6)，64，2002．(第273会東京歯科大学学会例会，千葉市)(1)歯麻

9. 見崎 徹⁽¹⁾, 金子 讓⁽²⁾, 海野雅浩⁽³⁾, 古屋英毅⁽⁴⁾, 吉村 節⁽⁵⁾, 福田謙一⁽²⁾, 深山治久⁽³⁾, 中村仁也⁽⁴⁾: Ropivacaine の使用状況に関するアンケート調査結果, 日歯麻会誌 30(4), 457, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京都) (1)日大・歯・歯麻, (2)歯麻, (3)東医歯大・大学院・口腔機能再建学, (4)日歯大・歯・歯麻, (5)昭和大・歯・歯麻
10. 谷田部純子, 笠原正貴, 福田謙一, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: 全身麻酔インフォームド・コンセント実施における不安への影響, 日歯麻会誌 30(4), 474, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京) (1)歯麻
11. 松浦信幸⁽¹⁾, 笠原正貴, 澁川義幸⁽²⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 鈴木 隆⁽²⁾, 金子 讓⁽¹⁾: ケタミンは CO₂レーザー痛覚刺激による痛覚誘発脳磁場 (pain - SEFs) を抑制した, 日歯麻会誌 30(4), 484, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京) 脳科学研 (1)歯麻, (2)生理
12. 半田俊之⁽¹⁾, 福田謙一, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: 患者の術後痛緩和要求度に影響する因子の検討, 日歯麻会誌 30(4), 485, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京) (1)歯麻
13. 櫻井 誠⁽¹⁾, 福田謙一, 半田俊之⁽²⁾, 上谷陽一郎⁽²⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽²⁾, 金子 讓⁽²⁾: Infusion pump を使用したミダゾラム鎮静における滴定量の検討, 日歯麻会誌 30(4), 492, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京) (1)千葉県, (2)歯麻
14. 笠原正貴, 福田謙一, 半田俊之⁽¹⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: Zoster sine herpete と考えられた 1 症例, 日歯麻会誌 30(4), 500, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京) (1)歯麻
15. 上谷陽一郎⁽¹⁾, 福田謙一, 笠原正貴, 半田俊之⁽¹⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: 歯科処置後三叉神経知覚障害発症患者への事前説明は適切か 三叉神経知覚障害患者81名の集計から, 日歯麻会誌 30(4), 501, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京) (1)歯麻
16. 福田謙一, 笠原正貴, 半田俊之⁽¹⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: 星状神経節ブロックが著効した激痛のため緊急来院した 2 症例, 日歯麻会誌 30(4), 504, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京) (1)歯麻
17. 齋田菜緒子, 野間智子, 福田謙一, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: 歯科口腔外科手術における Laryngeal mask airway (LMA) 使用266症例の検討, 日歯麻会誌 30(4), 521, 2002. (第30回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京) (1)歯麻
18. 村松 淳, 濱田智恵子⁽¹⁾: 職域における顎関節症への対応を考える, 産業歯科保健研究会第14回研修会プログラム2002, 2002. (産業歯科保健研究会 第14回研修会, 東京) (1)H. M's COLLECTION(有)
19. 福田謙一, 笠原正貴, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: 日常生活における医原性疾患を考える, 平成14年度日本歯科医療管理学会関東支部総会・第8回学術大会プログラム・抄録集, 12, 2002. (平成14年度日本歯科医療管理学会 関東支部総会・第8回学術大会, 東京) (1)歯麻
20. Kasahara, M., Fukuda, K., Kaneko, Y.⁽¹⁾: Analgesic effect of paroxetine for orofacial neuropathic pain, China - Japan Medical Conference 2002 Program & Abstracts Book, 36, 2002. (中日医学大会2002, Beijing, China) (1)歯麻

21. 福田謙一, 笠原正貴, 半田俊之⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: メキシレチン内服が有効であった口腔顔面神経因性疼痛の一症例, 日ペインクリニック会誌 9(3), 280, 2002. (第36回日本ペインクリニック学会大会, 宮崎市) (1)歯麻
22. 笠原正貴, 福田謙一, 半田俊之⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾: 神経因性疼痛症状を呈する慢性下顎骨骨髓炎の2症例, 日ペインクリニック学会誌 9(3), 280, 2002. (第36回日本ペインクリニック学会大会, 宮崎市) (1)歯麻
23. 福田謙一, 笠原正貴, 半田俊之⁽¹⁾, 村松 淳, 金子 讓⁽¹⁾: コハク酸スマトリブタン皮下注射が診断に有効だった神経血管性歯痛の2症例, 日本麻酔・薬理学会第24回学術大会プログラム, 34, 2002. (日本麻酔・薬理学会第24回学術大会, 東京) (1)歯麻
24. 笠原正貴, 福田謙一, 半田俊之⁽¹⁾, 村松 淳, 金子讓⁽¹⁾: 口腔内 CRPS に対してパロキセチンが効果を示した2症例, 日本麻酔・薬理学会第24回学術大会プログラム, 34, 2002. (日本麻酔・薬理学会第24回学術大会, 東京) (1)歯麻
25. 笠原正貴, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 讓⁽¹⁾, 間宮秀樹⁽¹⁾, 縣 秀栄⁽¹⁾, 松浦信幸⁽¹⁾, 川口 充⁽²⁾, 柴原孝彦⁽³⁾, 米津博文⁽⁴⁾, 澁川義幸⁽⁵⁾, 新谷益朗⁽⁶⁾: 顎顔面領域の慢性難治性疼痛に対する治療指針の検討オトガイ神経電気刺激による痛覚誘発農事場へのケタミンの影響, 歯科学報 103(1), 7 ~ 8, 2003. (平成13年度東京歯科大学口腔科学センターワークショップ, 千葉市) シンポジウム 脳科学研 (1)歯麻, (2)薬理, (3)口外, (4)口外, (5)生理, (6)法歯

8. スポーツ歯科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講師	島田 淳	顎関節症と全身状態との関連について (A00 0790 6)
病院助手	深町 元秀	マウスガードの装着が身体運動反応時間に及ぼす影響 (A00 0790 13)
	清川 由紀	スポーツ選手の外傷認識度 (A00 0790 10)
	小島 一郎	ガム咀嚼が全身運動能力に及ぼす影響 (A00 0790 7)

2. 成果の概要

1) スポーツ選手の顎関節症と運動パフォーマンスについて

コンタクトスポーツ選手の中には強いクレンチングや顎顔面領域への過度の衝撃、あるいは不適合なマウスガードを装着することによるいわゆる「顎関節症」を発症する者が多く見られる。外傷性の顎関節症状は骨折等が無ければ症状の消退も比較的早く軽症で済むが、近年急増しているのが不適合なマウスガード装着による顎関節症である。この場合選手自らが調整する市販のマウスガードを装着しているケースが殆どで、適合性が悪く顎の偏位が見られたりしっかり咬合できなかつたりするために発症するものと考えられ、選手自身はこの原因に気づかず、徐々に競技の成績を落として行くことも多い。このようなスポーツ選手に顎関節症の初期治療を行い、その後適切なマウスガードを調製することによってパフォーマンスを改善させることができ、治療前後の評価を重心動揺や ABR 等の様々な視点から評価することによって顎関節の状態や咬合状態とスポーツパフォーマンスがどのように関連しているのか評価している。

学会抄録

1. 川村慎太郎⁽¹⁾, 小川 透⁽¹⁾, 中島一憲⁽¹⁾, 小島一郎, 半田 潤⁽¹⁾, 高田英記⁽²⁾, 塩野英昭, 島田 淳, 武田友孝⁽¹⁾, 石上恵一⁽¹⁾: スポーツ外傷の発生要因第一報: パックなどの相違が加衝力に与える影響, 日補綴歯会誌 **46** (特別号), 150, 2001. (第107回日本補綴歯科学会学術大会, 東京) A00 0790 12 (1)スポーツ歯, (2)解剖
2. 小川 透⁽¹⁾, 深町元秀, 中島一憲⁽¹⁾, 清川由紀, 川村慎太郎⁽¹⁾, 澁澤真美⁽¹⁾, 保科早苗⁽¹⁾, 島田 淳, 武田友孝⁽¹⁾, 石上恵一⁽¹⁾: 顎顔面のスポーツ外傷について社会人と高校生の比較, 日補綴歯会誌 **46** (特別号), 174, 2002. (第107回日本補綴歯科学会学術大会, 東京) A00 0790 8 (1)スポーツ歯
3. 澁澤真美⁽¹⁾, 半田 潤⁽¹⁾, 小川 透⁽¹⁾, 清川由紀, 小島一郎, 川村慎太郎⁽¹⁾, 深町元秀, 保科早苗⁽¹⁾, 中島一憲⁽¹⁾, 島田 淳, 武田友孝⁽¹⁾, 石上恵一⁽¹⁾: マウスガードの厚みに関する研究, 日補綴歯会誌 **46** (特別号), 207, 2002. (第108回日本補綴歯科学会学術大会, 名古屋市) A00 0790 14 (1)スポーツ歯
4. 川村慎太郎⁽¹⁾, 小川 透⁽¹⁾, 半田 潤⁽¹⁾, 澁澤真美⁽¹⁾, 保科早苗⁽¹⁾, 中島一憲⁽¹⁾, 島田 淳, 武田友孝⁽¹⁾, 石上恵一⁽¹⁾: スポーツ外傷の発生要因加衝物およびマウスガードの相違の影響, 臨床スポーツ医学会誌 **10**(4), 86, 2002. (第13回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 名古屋市) A00 0790 12 (1)スポーツ歯
5. 中島一憲⁽¹⁾, 小川 透⁽¹⁾, 保科早苗⁽¹⁾, 島田 淳, 武田友孝⁽¹⁾, 石上恵一⁽¹⁾: 咬合拳上が身体運動反応時間に及ぼす影響 その2, 臨床スポーツ医学会誌 **10**(4), 108, 2002. (第13回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 名古屋市) A98 0508 2 (1)スポーツ歯
6. 川村慎太郎⁽¹⁾, 小川 透⁽¹⁾, 中島一憲⁽¹⁾, 小島一郎, 半田 潤⁽¹⁾, 高田英記⁽²⁾, 島田 淳, 武田友孝⁽¹⁾, 石上恵一⁽¹⁾: スポーツ外傷の発生要因 ポール, パックなどの相違が衝撃力に与える影響(その2), スポーツ歯 **6** (1), 66, 2003. (第13回日本スポーツ歯科医学会, 大分市) A00 0790 12 (1)スポーツ歯, (2)解剖
7. 杉崎正志⁽¹⁾, 木野孔司⁽²⁾, 米津博文⁽³⁾, 島田 淳, 本田和也⁽⁴⁾, 渋谷智明⁽⁵⁾, 坂本一郎⁽⁶⁾, 和嶋浩一⁽⁷⁾, 小川 匠⁽⁸⁾, 依田哲也⁽⁹⁾, 成田紀之⁽¹⁰⁾, 内田貴之⁽¹¹⁾: 手指による加圧量の再現性に関する練習効果の評価, 日顎関節会誌 **15**(1), 94, 2003. (第15回日本顎関節学会総会, 東京) A00 0790 6 (1)慈恵医大・歯科, (2)東医歯大・顎関節治療部, (3)口外, (4)日大・歯・放, (5)東医歯大・大学院・顎顔面外科, (6)東医歯大・大学院・口腔機能再建学, (7)慶大・医・歯口外, (8)鶴見大・歯・補綴2, (9)東大・医・附属病院顎口外矯正, (10)日大・松戸歯・補綴3, (11)日大・松戸歯・口腔診断

9 . 眼 科

プロフィール

1 . 教室員と主研究テーマ

- 教 授 ビッセン宮島弘子 固視像および瞳孔径観察可能なビデオ pupillometer の開発
(A01 0791 2)
- 助 手 鈴木 高佳 LASIK 後の iron line の発生率および共焦点生体顕微鏡像による発生部位の検討
- 病院助手 鈴木慎太郎

2 . 成果の概要

1) 固視像および瞳孔径観察可能なビデオ pupillometer の開発

白内障手術や屈折矯正手術後の視機能を測定する際、瞳孔径の影響を十分検討する必要がある。老視治療への関心が高まり、とくにこれらの手術後の近方視力と瞳孔径、さらに波面収差が注目されている。従来の瞳孔径測定装置では測定できなかった、固視像と瞳孔状態を同時に観察可能なポータブルビデオ pupillometer を用いて、瞳孔径と視機能、特に近方視力との関係を検討する。実際には、白内障手術や屈折矯正手術後、遠方および近方視力を測定し、今回は連続測定可能なモードを用いポータブルビデオ pupillometer で瞳孔径を記録する。特に近方視力も良好な例においては、瞳孔径測定に加え、波面収差、とくに高次収差の影響を検討する。

2) LASIK 後の iron line の発生率および共焦点生体顕微鏡像による発生部位の検討

LASIK 後の角膜 iron line が近年報告されているが、発生機序、発生原因については未だ解明されていない。当院で行った LASIK 後に、角膜 iron line 発生の有無を際隙灯顕微鏡にて観察し、その部位と形態を記録し、iron line がみられた症例に関しては共焦点生体顕微鏡による観察を試みる。得られた結果からその発生機序についての考察を行う。

3 . 研究活動の特記すべき事項

オーガナイザー

オーガナイザー	年月日	演 題	学会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2002 . 6 23	これからの眼内レンズ手術	第41回日本白内障学会・ 第17回日本眼内レンズ 屈折手術学会総会	東京
ビッセン宮島弘子	2002 . 9 27	屈折矯正手術	第56回日本臨床眼科学会	盛岡市
ビッセン宮島弘子	2003 . 1 31	Wave front technology update	第26回日本眼科手術学会	京都市
ビッセン宮島弘子	2003 . 1 31	角膜・屈折矯正手術	第26回日本眼科手術学会	京都市
ビッセン宮島弘子	2003 . 2 . 1	屈折矯正手術最前線	第26回日本眼科手術学会	広島市

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演 題	学会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2003 . 1 31	マイクロケラトームの使い方	第26回日本眼科手術学会	広島市

学会招待講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ピッセン宮島弘子	2002.5.17	最新のレーザー角膜治療	慶應義塾大学工学会	東京

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ピッセン宮島弘子	2002.6.2	The learning curve in using the BD K - 3000 Microkeratome	BD Ophthalmic systems speakers forum	Philadelphia, U. S. A.
ピッセン宮島弘子	2002.6.21	「打倒！内皮障害」術中保護対策	第17回日本眼内レンズ屈折手術学会ランチョンセミナー	東京
ピッセン宮島弘子	2002.8.10	眼にやさしい白内障手術	第2回眼科手術友の会プログラム	浜松市
ピッセン宮島弘子	2002.10.6	アクリソフシングルピースとスリーピースの比較	患者さんの為のAdvanced Phaco	岡山市
ピッセン宮島弘子	2002.10.21	LASIK for Small Eyes	BD Ophthalmic systems speakers forum	Orland, U. S. A.
ピッセン宮島弘子	2002.11.6	屈折矯正の最新事情(様々な屈折矯正法とメリット, デメリット)	第11回シードセミナー	東京
ピッセン宮島弘子	2002.11.15	LASIKの最近の動向	第68回日本中部眼科学会ランチョンセミナー	大阪市
ピッセン宮島弘子	2002.11.19	最近の白内障手術と屈折矯正レーザー手術	練馬区歯科医師会学術講演会	東京
ピッセン宮島弘子	2002.11.30	LASIKの実際	第10回霧島眼科研鑽会	都城市
ピッセン宮島弘子	2003.2.2	マルチフォーカル IOL による老眼治療	第5回 ISQOV Meeting	京都市
ピッセン宮島弘子	2003.2.8	白内障手術と屈折矯正手術今後の動向	宮崎県眼科医会講習会	宮崎市
ピッセン宮島弘子	2003.2.9	患者さんにやさしい白内障手術, 屈折矯正手術を求めて	宮崎県眼科医会従業員上級講習会	宮崎郡清武町
ピッセン宮島弘子	2003.2.26	最近の白内障手術と屈折矯正レーザー手術	東京歯科大学同窓会杉並支部学術講習会	東京
ピッセン宮島弘子	2003.3.1	視機能・屈折矯正手術	眼科診療ライブ・アップデートセミナー	京都市
ピッセン宮島弘子	2003.3.22	LASIK アップデート	眼科トピックス勉強会	名古屋市
ピッセン宮島弘子	2003.3.25	エキシマレーザー近視矯正術	多野藤岡医師会	藤岡市

論 文

- 1 . 三宅みのり, ビッセン宮島弘子, 平 容子⁽¹⁾, 菊地毅志 : 高度近視眼へのマルチパス・マルチゾーン LASIK の手術成績, 眼科手術 **15**(3), 381 ~ 384, 2002 . 原著 (1)埼玉県
- 2 . Bissen - Miyajima, H., Monden, Y.⁽¹⁾, Shimazaki, J.⁽²⁾, Tsubota, K.⁽²⁾ : Cataract surgery combined with ocular surface reconstruction in patients with severe cicatricial keratoconjunctivitis, J Cataract Refract Surg **28**(8), 1379 ~ 1385, 2002 . 原著 (1)久留米大・医・眼科, (2)市病・眼科
- 3 . ビッセン宮島弘子, 鹿島みのり, 平 容子⁽¹⁾, 中村雅胤⁽²⁾, 南 慶一郎⁽²⁾ : エンドトキシンによる家兎眼の Diffuse Lamellar Keratitis 様変化, あたらしい眼科 **19**(12), 1617 ~ 1620, 2002 . 原著 (1)埼玉県, (2)参天製薬(株)

解 説

- 1 . ビッセン宮島弘子 : 第55回日本臨床眼科学会印象記シンポジウム 8 : 「屈折矯正手術の基礎と臨床」, 眼科 **44**(4), 515 ~ 517, 2002 .
- 2 . ビッセン宮島弘子 : 白内障術後乱視へのエキシマレーザー, 臨床眼科 **56**(6), 948 ~ 950, 2002 .
- 3 . ビッセン宮島弘子 : 角膜混濁例への白内障手術, 臨床眼科 **56**(7), 1248 ~ 1250, 2002 .
- 4 . ビッセン宮島弘子 : Eye Surgery バトルロイヤル角膜屈折矯正手術シリーズ 第 1 回「私のスタンダード患者, 治療の選択編」, 日眼紀 **53**(8), 676 ~ 677, 2002 .
- 5 . ビッセン宮島弘子 : Eye Surgery バトルロイヤル角膜屈折矯正手術シリーズ 第 2 回「実際のこだわり LASIK 編」, 日眼紀 **53**(9), 757 ~ 758, 2002 .
- 6 . 鈴木慎太郎, ビッセン宮島弘子 : LASIK の立場から 高次収差の克服が課題 , 日コンタクトレンズ会誌 **44**(2), 139 ~ 141, 2002 .
- 7 . ビッセン宮島弘子 : Eye Surgery バトルロイヤル角膜屈折矯正手術シリーズ 第 3 回「特殊ケース編」, 日眼紀 **53**(10), 839 ~ 840, 2002 .
- 8 . ビッセン宮島弘子 : Eye Surgery バトルロイヤル角膜屈折矯正手術シリーズ 第 4 回「副作用編 : 私の予防法, 対処法」, 日眼紀 **53**(11), 924 ~ 925, 2002 .
- 9 . ビッセン宮島弘子 : Eye Surgery バトルロイヤル角膜屈折矯正手術シリーズ 第 5 回「賢者の教え編」, 日眼紀 **53**(12), 1004 ~ 1005, 2002 .
- 10 . Bissen - Miyajima, H. : For achieving best uncorrected vision call for submissions, Vision Restoration **3** (3), 1 , 2002 .
- 11 . ビッセン宮島弘子 : Eye Surgery バトルロイヤル角膜屈折矯正手術シリーズ 第 6 回「今後の屈折矯正手術はこうあれ ! 編」, 日眼紀 **54**(1), 85 ~ 86, 2003 .

単行図書

- 1 . ビッセン宮島弘子^(a) : 著分担 : 超音波白内障手術 ABC ^(a)創口熱傷 134~137頁, メジカルビュー社, 東京, 2002 .
- 2 . ビッセン宮島弘子^(a) : 著分担 : 眼科診療プラクティス83 ^(a)enhancement を行う基準と時期 62~64頁, 文光堂, 東京, 2002 .
- 3 . ビッセン宮島弘子^(a) : 著分担 : 角膜トポグラファーと波面センサー 解読のポイント ^(a)wavefront - guided refractive surgery の将来 194~198頁, メジカルビュー, 東京, 2002 .

学会抄録

- 1 . Bissen - Miyajima, H., Miyake - Kashima, ., Taira, Y.⁽¹⁾, Minami, K.⁽²⁾, Nakamura, M.⁽²⁾ : Stage and diffuse lamellar keratitis : Its histopathological changes in endotoxin - treated rabbit eyes, ARVO Program Summary Book, 84 , 2002 . (2002 Annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, USA) (1)埼玉県, (2)参天製薬(株)
- 2 . Miyake - Kashima, M., Bissen - Miyajima, H., Taira, Y.⁽¹⁾, Minami, K.⁽²⁾, Nakamura, M.⁽²⁾ : Stage and diffuse lamellar keratitis : Its occurrence and time course in endotoxin - treated rabbit eyes, ARVO Program Summary Book, 85 , 2002 . (2002 Annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, USA) (1)埼玉県, (2)参天製薬(株)
- 3 . Bissen - Miyajima, H. : The key to effective soft - shell technique, 15th ASCRS Abstracts, 41 , 2002 . (15th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, Philadelphia, USA)
- 4 . 大橋由枝, ビッセン宮島弘子, 菊地毅志 : 遠視化予防を考慮した照射法で PTK を行った帯状角膜変性症の 1 例, 第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会講演抄録集, 145 , 2002 . (第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京)
- 5 . 鹿島みのり, ビッセン宮島弘子, 平 容子⁽¹⁾, 中村雅胤⁽²⁾, 南 慶一郎⁽²⁾ : フラップ下に残留したメタル微小片の角膜層間への影響, 第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会講演抄録集, 155 , 2002 . (第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京) (1)埼玉県, (2)参天製薬(株)
- 6 . ビッセン宮島弘子, 大橋由枝, 菊地毅志 : LASEK 手技を用いた帯状角膜変性症への治療的角膜切除術, 第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会講演抄録集, 167 , 2002 . (第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京)
- 7 . ビッセン宮島弘子 : 両眼多焦点, 単焦点, さらに多焦点眼内レンズを経験した 1 例, 第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会講演抄録集, 169 , 2002 . (第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京)
- 8 . 平 容子⁽¹⁾, ビッセン宮島弘子 : シングルピースアクリルレンズ挿入後の屈折の安定, 第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会講演抄録集, 172 , 2002 . (第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京) (1)埼玉県

- 9 . Bissen - Miyajima, H., Taira, Y.⁽¹⁾ : Early postoperative stability of refraction with single - piece Acrysof IOL, 20th ESCRS Program, 114 , 2002 . (20th European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Nice, France) (1)埼玉県
- 10 . ビッセン宮島弘子, 鈴木慎太郎, 大橋由枝, 菊地毅志 : 予定フラップ厚と測定値の差が大きかった症例の検討, 第56回日本臨床眼科学会講演抄録集, 114 , 2002 . (第56回日本臨床眼科学会, 盛岡市)
- 11 . 鈴木慎太郎, ビッセン宮島弘子, 大橋由枝 : マイクロケラトームにおける吸引リング固定と眼圧の経時的変化, 第56回日本臨床眼科学会講演抄録集, 114 , 2002 . (第56回日本臨床眼科学会, 盛岡市)
- 12 . Ohashi, Y., Bissen - Miyajima, H., Ito,S., Taira, Y.⁽¹⁾ : The result of BD K3000 microkeratome in Japanese eyes, 20th ESCRS Program, 183 , 2002 . (20th European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Nice, France) (1)埼玉県
- 13 . Bissen - Miyajima, H. : The real storyfrom a patient who experienced monofocal and multifocal IOLs, 20th ESCRS Program, 317 , 2002 . (20th European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Nice, France)
- 14 . 鈴木慎太郎, ビッセン宮島弘子, 大橋由枝 : ケラトームの吸引リング固定と眼圧の経時的変化 : シングルとデュアルポートの比較, 眼科手術 16 , 90 , 2003 . (第26回日本眼科手術学会, 京都市)
- 15 . 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 鈴木慎太郎, 菊地毅志 : LASIK 後の corneal iron line , 第27回角膜カンファレンス・第19回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 60 , 2003 . (第27回角膜カンファレンス・第19回日本角膜移植学会, 長野県北佐久郡) 脳科学研
- 16 . Bissen - Miyajima, H. : The real storyfrom a patient who experienced monofocal and multifocal IOLs, 15th ASCRS Abstracts, 115 , 2003 . (15th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, Philadelphia, USA)
- 17 . Suzuki, S., Bissen - Miyajima, H. : Evaluation of night vision complication after LASIK, 15th ASCRS Abstracts, 541 , 2003 . (15th Symposium on American Society ofCataract and Refractive Surgery, Philadelphia, USA)